
NX7700x/A6010E-2 シリーズ

ファームウェア更新ガイド

(オフライン版、**Starter Pack** 利用)

【特定物件更新用】

GZS-002247-001-00
2025 年 7 月 第 1 版
© NEC Corporation 2025

目次

目次	2
1. はじめに	4
2. 本書について	4
2.1. 本文中の記号について	4
2.2. 注意事項	5
3. 準備	6
3.1. 事前確認	6
4. 接続	8
5. 装置コンソール接続方法	9
5.1. iLO WEB インターフェース接続方法	9
5.2. リモートコンソール接続方法	12
5.3. STARTER PACK のマウント方法	14
6. ファームウェア更新手順	16
7. トラブルシューティング	39
7.1. [TS-01] iLO WEB インターフェースに、ファームウェアアップデート失敗の旨のメッセージが表示される	39
7.1.1. 現象	39
7.1.2. 対処	39
7.2. [TS-02] ファームウェア展開が失敗した	48
7.2.1. 現象	48
7.2.2. 対処	48
8. 付録	59
8.1. ファームウェアバージョン確認方法	59
8.1.1. iLO Web コンソールでの確認方法	59
8.2. リモートコンソール及び仮想メディア	61
8.2.1. .NET リモートコンソール (NET IRC) の使い方	61
8.2.1.1. コンソールの起動	61
8.2.1.2. 仮想メディアのマウント方法	61
8.2.1.3. 本体装置の電源制御方法	62
8.2.2. HTML5 統合リモートコンソールの使い方	64
8.2.2.1. コンソールの起動	64
8.2.2.2. 仮想メディアのマウント方法	64
8.2.2.3. 本体装置の電源制御方法	65
8.2.3. Java 統合リモートコンソール (Java IRC) の使い方	66
8.2.3.1. コンソールの起動	66
8.2.3.2. 仮想メディアのマウント方法	67
8.2.3.3. 本体装置の電源制御方法	68
8.3. MCTP 設定変更方法	69

ご注意

1. 本書の内容の一部または全部について、許可なく複製・転載・翻訳・他形式・メディアへの変換を行うことは、禁止されております。
2. 本書の内容については、将来予告なしに変更することがあります。
3. 本書の内容については、万全を期して作成いたしましたが、万一お気付きの点や、ご不明の点がありましたら、弊社までご連絡ください。
4. 本書記載操作を行った結果の影響については、上記 3 項にかかわらずいかなる責任も負いかねますので、ご了承ください。
5. 本書は、本体装置の操作に熟知した管理者、または保守員向けに記載されております。本体装置の取り扱いや、各種 OS の操作、その他一般的かつ基本的な事柄につきましては記載を省いておりますのであらかじめご了承ください。

© NEC Corporation 2025

日本電気株式会社の許可無く、本書の複製・改変などを行うことはできません。

1. はじめに

このたびは、NX7700x/A6010E-2 シリーズ製品をお買い求めいただき、誠にありがとうございます。
本書は、下記製品向けの文書となります。

対象製品 (本体装置)	NX7700x/A6010E-2
-------------	------------------

2. 本書について

本書は、対象本体装置の Starter Pack を使って、対象本体装置にインストールされている **特定の**ファームウェア をオフラインで更新するための手引きです。

ファームウェア更新作業時間	- System ROM ファームウェアを更新する場合 大凡 3 時間 00 分 (1 本体装置あたり) - 上記以外のファームウェアを更新する場合 大凡 2 時間 15 分 (1 本体装置あたり)
---------------	---

尚、対象本体装置にインストールされている全てのファームウェアを更新するための手引きについては、Starter Pack 掲載サイトをご覧ください。

2.1. 本文中の記号について

本書では、下記 3 種類の記号を使用しています。
これらの記号と意味をご理解になり製品を正しくお取り扱いください。

 重要	製品の取り扱いや、OS、ソフトウェアの操作で守らなければならない事柄や、特に注意すべき点を示します。
 チェック	製品や OS、ソフトウェアを操作する上で、確認しておく必要がある点を示します。
 ヒント	知っておくと役立つ情報や便利な事柄を示します。

また、本文中に掲載している画面イメージは一例であり、対象製品の構成及びご使用 Starter Pack に依り若干異なる場合がありますが、操作する上で支障のない差異ですので、予めご承知おきください。

2.2. 注意事項

本書記載手順でのファームウェア更新に係る注意事項を記載します。

[注意事項 01]

対象ファームウェア: System ROM

本書記載手順で **System ROM** ファームウェアを更新した場合、システムユーティリティの設定(BIOS/Platform Configuration (RBSU))が変更される場合があります。

そこで、本書記載手順で **System ROM** ファームウェアを更新する前に、これら設定をバックアップし、ファームウェアを更新した後、これら設定をリストアすることをお勧めします。

バックアップ及びリストア方法については、下記ガイドを参照してください。

- システムユーティリティの設定(BIOS/Platform Configuration (RBSU))
→ 対象本体装置のメンテナンスガイド(設定編)



本体装置セットアップ時におけるシステムユーティリティ設定に係る事項が、本体装置のユーザーズガイドの「3 章 (2.4 設定が必要なケース)」に記載されています。



各種ガイドの最新版を、web サイト <https://jpn.nec.com/nx7700x/support/> に掲載しています。

[注意事項 02]

対象ファームウェア: iLO 5

本書記載手順で **iLO 5** ファームウェアを更新した場合、iLO5 の設定が変更される場合があります。

そこで、本書記載手順で **iLO 5** ファームウェアを更新する前に、これら設定をバックアップし、ファームウェアを更新した後、これら設定をリストアすることをお勧めします。

バックアップ及びリストア方法については、下記ガイドを参照してください。

- iLO5 の設定
→ 対象本体装置の iLO5 ユーザーズガイド



各種ガイドの最新版を、web サイト <https://jpn.nec.com/nx7700x/support/> に掲載しています。

[注意事項 03]

対象ファームウェア: System ROM、iLO 5

本書記載手順で **System ROM** ファームウェアを更新した場合、システムユーティリティの設定(BIOS/Platform Configuration (RBSU))をリストアもしくは再設定した後、これら設定をバックアップしてください。

また、本書記載手順で **iLO 5** ファームウェアを更新した場合、iLO5 の設定をリストアもしくは再設定した後、これら設定をバックアップしてください。



何世代も前のファームウェア環境下でバックアップしたバックアップファイルが、新しいファームウェア環境下でリストアできなくなる場合があります。

3. 準備

本作業では、対象本体装置以外に下記物品が必要となりますので、予めご準備ください。

Table 3-1 必要となる物品

物品	数量	備考
端末パソコン	1	本体装置に接続し、本体装置を操作するために使用します。  重要 ご使用になる Starter Pack ファイル(iso ファイル)を、予め当該端末パソコンのローカルディスクに収録しておいてください。
ディスプレイ	1	本体装置に接続し、本体装置の画面として使用します。
LAN ケーブル	1	本体装置と端末パソコンを接続するために使用します。

 ヒント	既に、本体装置のマネージメント専用 LAN コネクタ()を介した iLO Web インターフェースへの接続環境を構築されており、且つ下記物品或いは情報をご存じである場合、前記< Table 3-1 必要となる物品 >は不要です。 - iLO Web インターフェースにアクセスする端末 - iLO Web インターフェースの User Name と Password - iLO Web インターフェースの IPv4 アドレスもしくは IPv6 アドレス  重要 ご使用になる Starter Pack ファイル(iso ファイル)を、予め iLO Web インターフェースへのアクセス端末のローカルディスクに収録しておいてください。
--	--

3.1. 事前確認

[事前確認 01]

本書記載ファームウェア更新手順は、**Secure** ブートに対応していません。
 よって、本体装置の **Secure** ブートが有効になっている場合には、一旦無効に変更して頂き、ファームウェア更新作業終了後に有効に戻してください。

Secure ブートの現在の設定値は、{System Utilities: System Configuration → BIOS/Platform Configuration(RBSU) → Server Security → Secure Boot Settings → Current Secure Boot State}で確認できます。

Secure ブートの変更は、{System Utilities: System Configuration → BIOS/Platform Configuration(RBSU) → Server Security → Secure Boot Settings → Attempt Secure Boot}で行えます。

[事前確認 02]

IO 系デバイスにケーブル(*a)などが接続されている場合、それらケーブル(*a)接続状態を記録した上で、当該ケーブル(*a)を取り外してください。そして、ファームウェア更新作業終了後に、それらケーブル(*a)を元の接続状態に戻してください。

(*a) 本体装置内蔵 SAS ケーブルは対象外

[事前確認 03]

IO 系デバイスの PCIe Option ROM が"Disabled"に設定されている場合、IO 系デバイスのファームウェア version を確認できない場合があります ("N/A"と表示される)。
 その場合には、当該 IO 系デバイスの PCIe Option ROM 設定を一旦"Enabled"に変更して頂き、ファームウェア更新作業終了後に"Disabled"に戻してください。

PCIe Option ROM 設定は、{System Utilities: System Configuration → BIOS/Platform Configuration(RBSU) → PCIe Device Configuration → <PCIe デバイス (*a)>}で行えます。

(*a) PCIe Option ROM Disabled 設定時、PCIe デバイス表記は下表の通りになります。

モジュール	PCIe デバイス表記 (Option ROM Disabled 時)
RAID/SAS Controller	Storage Controller
NIC/LOM	Network Controller
FC Controller	PCIe Controller

[事前確認 04]

本書記載ファームウェア更新手順は、Trusted Platform Module(TPM)に対応しておりません。
 そこで、対象本体装置に TPM が搭載されているか否かを確認してください。
 そして、TPM が搭載されている場合、「TPM Visibility」設定を一旦[Hidden]に変更して頂き、ファームウェア更新作業終了後に元の設定値に戻してください。

TPM 搭載有無は、{System Utilities: System Configuration → BIOS/Platform Configuration(RBSU) → Server Security → Trusted Platform Module Options → Current TPM State}で確認できます。

TPM Visibility 設定の変更は、{System Utilities: System Configuration → BIOS/Platform Configuration(RBSU) → Server Security → Trusted Platform Module Options → Advanced Trusted Platform Module Options → TPM Visibility}で行えます。

[事前確認 05]

System Utilities 及び iLO Web インターフェースでの MCTP 設定が「無効」になっていると、ファームウェア更新が失敗する場合があります。
 そこで、ファームウェア更新を行う前に、下記<MCTP 設定に係る事前作業>を行ってください。
 そして、ファームウェア更新完了後、必要に応じて、MCTP 設定を元に戻してください。

<MCTP 設定に係る事前作業>

- 1) System Utilities 及び iLO Web インターフェースにおける現 MCTP 設定値を控える (記録する)。
- 2) System Utilities 及び iLO Web インターフェースにおける全てのスロットの MCTP 設定を、一旦「有効」に設定する。

MCTP 設定変更方法については、<8.3MCTP 設定変更方法>を参照してください。

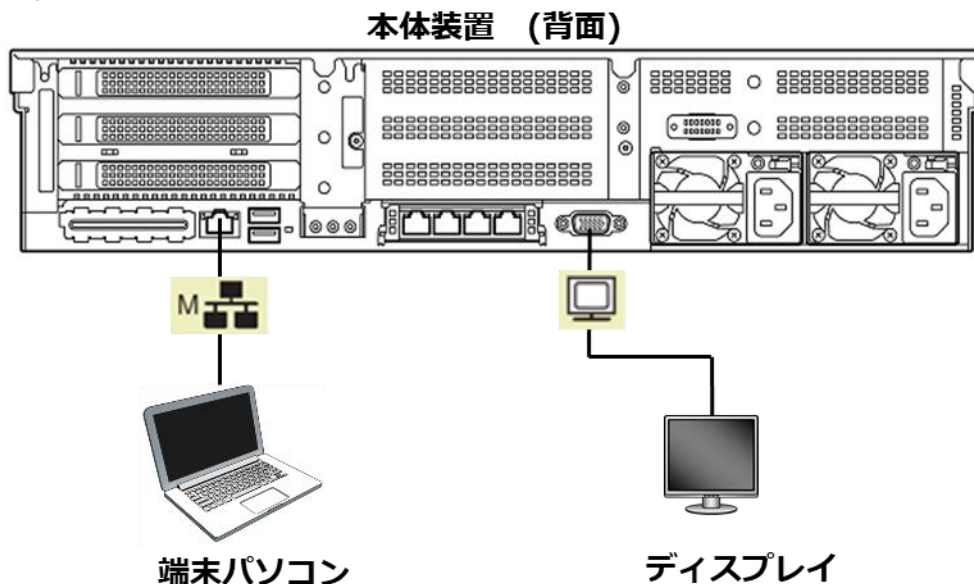


MCTP 設定は、System Utilities 及び iLO Web インターフェースのどちらとも、デフォルト「有効」です。

4. 接続

ご準備頂いた物品を下図のとおり本体装置に接続します。

Figure 4-1 接続図



端末パソコンと本体装置は、LAN ケーブルで直結させてください。



既に、本体装置のマネージメント専用 LAN コネクタ()を介した iLO Web インターフェースへの接続環境を構築されている場合、そのままの接続環境で構いません。

5. 装置コンソール接続方法

本書記載のファームウェア更新手順では、本体装置に接続した端末パソコンから本体装置の iLO Web インターフェース及び本体装置のリモートコンソールに接続して更新作業を行います。

また、本体装置内 iLO のリモートメディア機能を使って、Starter Pack を本体装置にマウントして更新作業を行います。

ここでは、iLO Web インターフェース接続方法、リモートコンソール接続方法、及び Starter Pack のマウント方法を記載します。

5.1. iLO Web インターフェース接続方法

[step.a-01] iLO Web インターフェースへの接続情報の確認

A. iLO Web インターフェースの User Name と Password の確認

本体装置前面のスライドタグにある iLO ライセンスシール中に記載されている「User Name」と「Password」を控えます。



既に、iLO Web インターフェースの User Name と Password をご存じである場合、本作業は不要です。

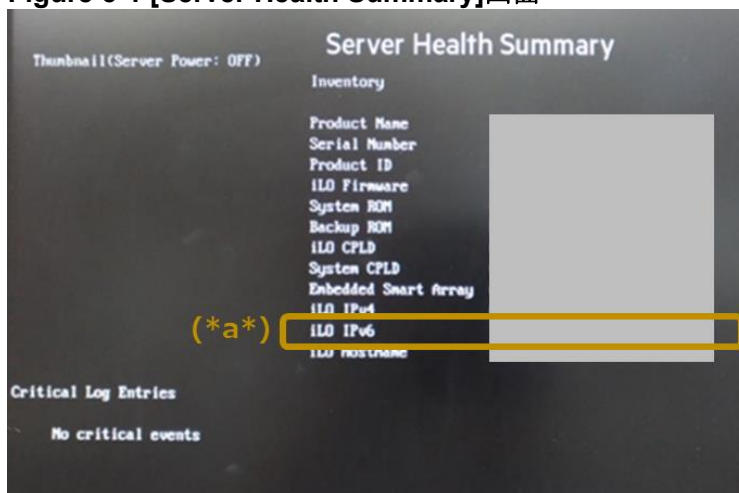


以降の作業で、この User Name と Password が必要になります。

B. iLO Web インターフェースの IP アドレス(IPv6)の確認

- ① 本体装置の電源コードをコンセントに取り付けます。
- ② **Server Health Summary** 画面をディスプレイに表示させます。
具体的には、前記①の後、本体装置前面の **POWER** ランプがアンバー色に点灯していることを確認した上で、**UID** スイッチを押します。
そうすると、ディスプレイに下図画面が表示されますので、下図(*a*)箇所の「iLO IPv6」のアドレスを控えます。

Figure 5-1 [Server Health Summary]画面



	既に、iLO Web インターフェースの IPv4 アドレスもしくは IPv6 アドレスをご存じである場合、本作業は不要です。
	IPv6 の仕様として、セクションが"0"で始まる場合、"0"を省略して表示しても良いことになっています。 そのため、表示される IPv6 アドレスの各セクションが 4 桁ではない場合があります。その際は、各セクションが 4 桁となるように、セクションの先頭に"0"を付加して控えてください。 (例) 表示値: fe80::9618:82ff:fe71:2b4 控え値: fe80::9618:82ff:fe71:02b4
	前記①の後、本体装置前面の POWER ランプが緑色に点滅或いは点灯していた場合、本体装置の電源が ON されています。 その場合は、POWER スイッチを 4 秒以上押し続けて、本体装置の電源を OFF します (スタンバイ状態にします)。 本体装置の電源が OFF されると、POWER ランプがアンバー色に点灯します。
	以降の作業で、この IPv6 アドレスが必要になります。

[step.a-02] iLO Web インターフェースへの接続とログイン

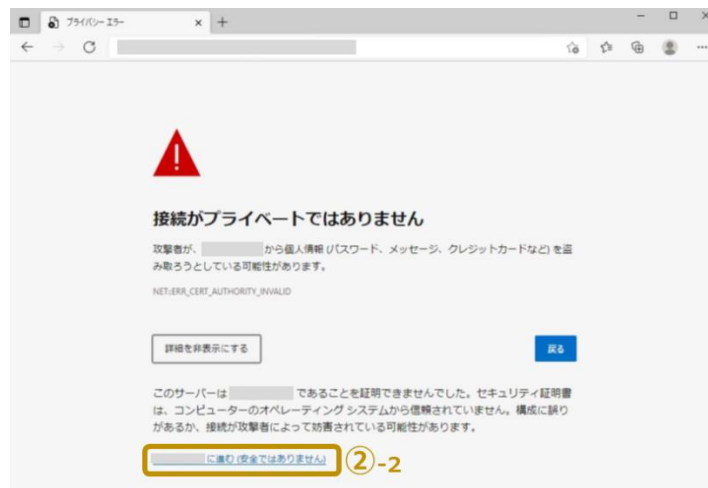
A. iLO Web インターフェースへの接続

- ① 端末パソコンにて Web ブラウザ (Microsoft Edge 等) を起動し、前記作業で控えておいた iLO Web インターフェースの IP アドレスをアドレスバー (①) に入力します。

例) `https://[abcd::efgh:ijklmnop:qrst]/`



- ② セキュリティ警告が表示された場合は、上記画面の「詳細情報」(②-1) をクリックします。そうすると、下記画面表示になりますので、「xxxx に進む (安全ではありません)」(②-2) をクリックしてください。



B. iLO Web インターフェースへのログイン

iLO Web インターフェースに接続できると下記画面が表示されますので、前記作業で控えておいた iLO Web インターフェースの **User Name** と **Password** を①箇所に入力し、「ログイン」ボタンを押します。



ログインに成功すると、下記画面に切り替わります。



5.2. リモートコンソール接続方法

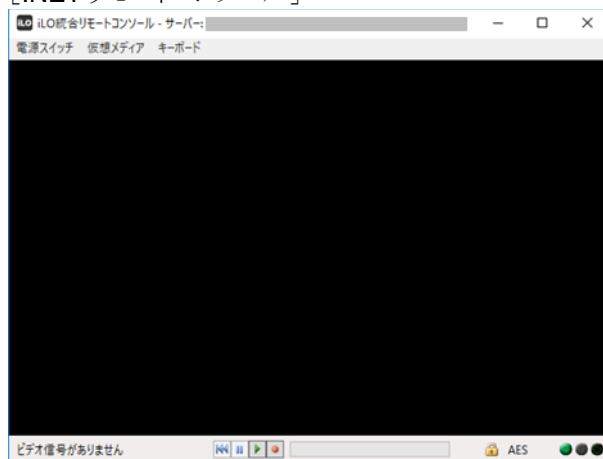
[step.b-01] リモートコンソールの起動

iLO Web インターフェースのメニューフレームにて「リモートコンソール & メディア」(①)をクリックし、「起動」タブ(②)をクリックします。そして、「.NET コンソール」ボタン(③)をクリックします。



.NET リモートコンソールが起動できると、下図コンソールがポップアップ表示されます。

[.NET リモートコンソール]



「.NET リモートコンソール」が起動しない場合、下記何れかの対処を行ってください。

[対処 A]

「iLO5 ユーザーズガイド」を参照して、.NET リモートコンソール(.NET IRC)に係る要件、トラブルシューティング等を確認し、端末パソコン及び端末パソコン上で起動している web ブラウザを適切に設定する。

[対処 B]

Microsoft Edge にて iLO Web インターフェースに接続している場合、Microsoft Edge を下記の通り設定し、Microsoft Edge を再起動させた後、再度 iLO Web インターフェースに接続する。

1. ブラウザで以下に移動する。
edge://settings/content/insecureContent
2. [許可]において、[追加]をクリックする。[サイトの追加]ダイアログが開きます。
3. [サイトの追加]ダイアログに、iLO Web インターフェースの IP アドレスを入力し、[追加]をクリックする。
(IPv6 アドレス入力例) **[aaaa::bbbb:cccc:dddd:eeee]**

[対処 C]

{iLO Web インターフェース:「セキュリティ」→「アクセス設定」}ページにおける下表設定項目の現設定値を確認する。

設定項目	設定値
ネットワーク - Web サーバー非 SSL ポートを有効	有効
ネットワーク - Web サーバーSSL ポート	80

もし現設定値が上表記載設定値と異なる場合には、現設定値を控えた上で、上表記載設定値に変更する。

[対処 D]

Microsoft Edge(IE モード)にて、iLO Web インターフェースに接続する。

[対処 E]

「HTML5 統合リモートコンソール」或いは「Java 統合リモートコンソール」を起動させる。
当該リモートコンソールの起動方法は、＜8.2 リモートコンソール及び仮想メディア＞を参照ください。

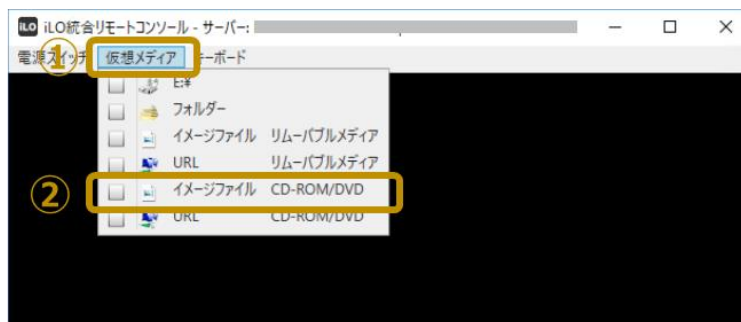
5.3. Starter Pack のマウント方法

[step.c-01] Starter Pack のマウント

本体装置から Starter Pack ファイル(iso ファイル)が見えるようにします。

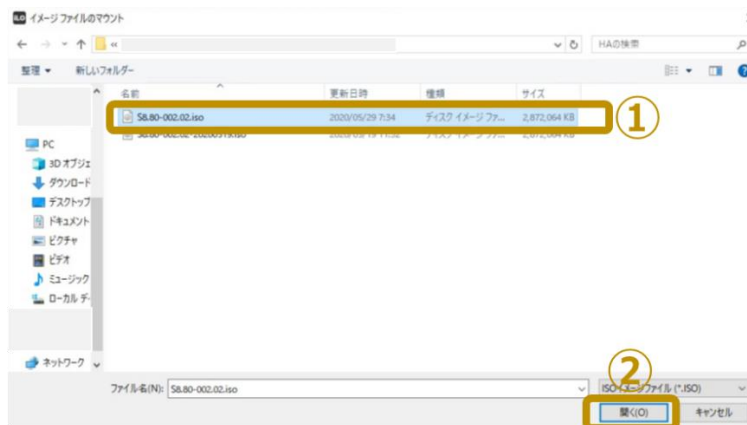
A. 仮想メディアの選択

リモートコンソールの[仮想メディア] → [イメージファイル CD-ROM/DVD]を選択します。



B. Starter Pack ファイルのマウント

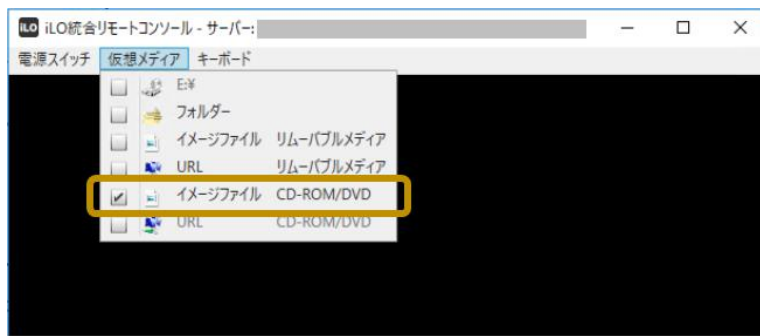
ポップアップ表示された「イメージファイルのマウント」ダイアログにて、予め端末パソコン内に収録しておいた Starter Pack ファイル(iso ファイル)を選択し (①)、「開く(O)」ボタン(②)をクリックします。



上記「開く(O)」ボタン(②)をクリックしてからファイルマウントされるまで、約 1 分ほどかかります。

C. Starter Pack ファイルのマウントの確認

リモートコンソールの[仮想メディア]をクリックし、[イメージファイル CD-ROM/DVD]にチェック(レ点)が付いていることを確認します。



6. ファームウェア更新手順

本体装置にインストールされているファームウェアの更新方法を記載します。

 重要	本作業を行う前に、本体装置の電源が OFF になっていることを確認してください。 具体的には、本体装置正面の POWER ランプがアンバー色に点灯していることを確認してください。
 重要	本ファームウェア更新手順の下記手順には、操作時間制約(10 秒以内)があります。 よって、予め、どのような操作時間制約なのかをご確認頂いた上で、ファームウェア更新を開始してください。 - [step.1-07] Starter Pack の起動 - [step.2-06] Starter Pack の起動
 ヒント	POWER ランプが消灯している場合、電源コードがコンセント或いは本体装置から外れている可能性がありますので、ご確認ください。 POWER ランプが緑色に点滅或いは点灯している場合、本体装置の電源が ON されています。 POWER スイッチを 4 秒以上押し続けて、本体装置の電源を OFF してください(スタンバイ状態にしてください)。 本体装置の電源が OFF されると、POWER ランプがアンバー色に点灯します。
 ヒント	本体装置の Mother Board に収録される Syetem ROM は 2 バンク構成になっています。 そのため、再起動を跨いで FW 更新を 2 回実施する必要があります。 { FW 更新(1回目) → 再起動 → FW 更新(2 回目) }

[step.1-01] iLO Web インターフェースへの接続・ログイン

端末パソコンにて Web ブラウザを立ち上げ、本体装置の iLO Web インターフェースに接続・ログインします。

具体的な手順は、前記<5.1iLO Web インターフェース接続方法>を参照してください。

[step.1-02] iLO 設定の事前確認

事前確認項目はございません。次の作業に進んでください。

[step.1-03] リモートコンソールの起動

iLO Web インターフェースからリモートコンソールを起動します。

具体的な手順は、前記<5.2 リモートコンソール接続方法>を参照してください。

[step.1-04] Starter Pack ファイルのマウント

予め端末パソコンに収録しておいた Starter Pack ファイル(iso ファイル)が本体装置から見えるようにします。

具体的な手順は、前記<5.3Starter Pack のマウント方法>を参照してください。

[step.1-05] 本体装置 電源 ON

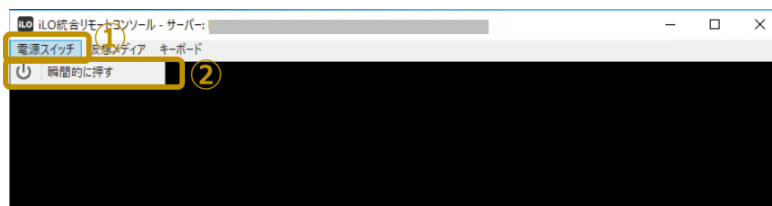
本体装置の電源を ON します。

具体的には、下記何れかの操作を行います。

- 本体装置前面の POWER ボタンを押す。
- iLO Web インターフェースの[電力&温度] → [サーバー電源] → [瞬間的に押す]をクリックする。



- リモートコンソールの[電源スイッチ] → [瞬間的に押す]をクリックする。



リモートコンソールでのその他電源操作については、<8.2.1.3 本体装置の電源制御方法>に記載しております。

[step.1-06] Boot Menu の起動

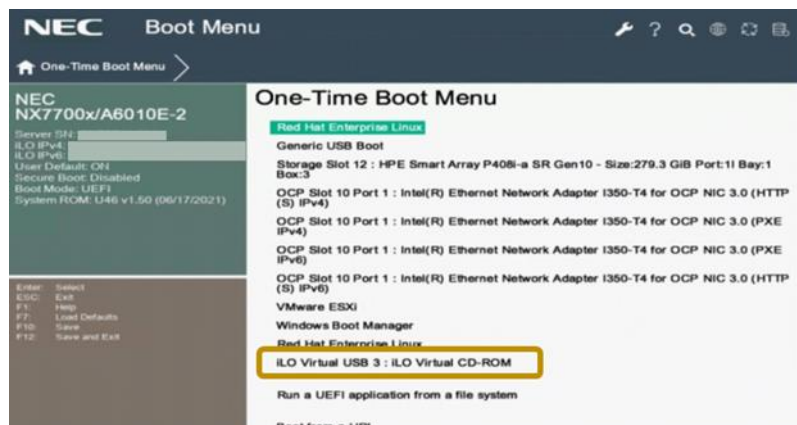
本体装置電源 ON 後、リモートコンソールが下記画面表示になったならば、<F11>キーを押して Boot Menu を起動します。



[step.1-07] Starter Pack の起動

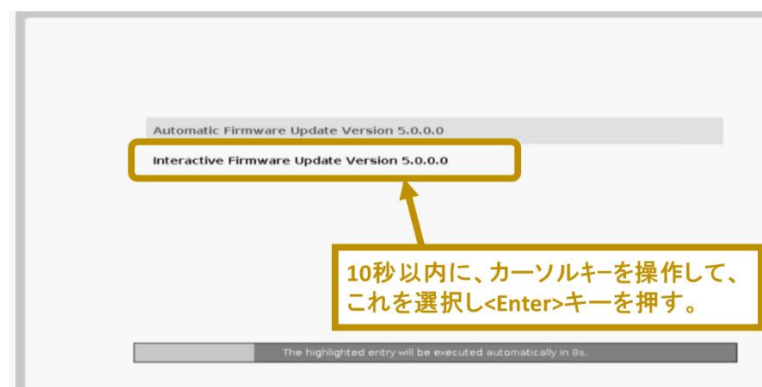
A. 起動デバイスの選択

リモートコンソールに表示されているブートメニューにおいて、「iLO Virtual USB 3:iLO Virtual CD-ROM」を選択します。



B. Interactive モードの選択

下記画面が表示されたならば、★10 秒以内★に、カーソルキーを操作して、「Interactive Firmware Update ...」を選択し、<Enter キー>を押します。



 重要	10 秒以内に選択操作をしなかった場合、「Automatic Firmware Update ...」が選択され、自動的にファームウェア更新が行われてしまいます。
--	---

C. ソフトウェア使用許諾

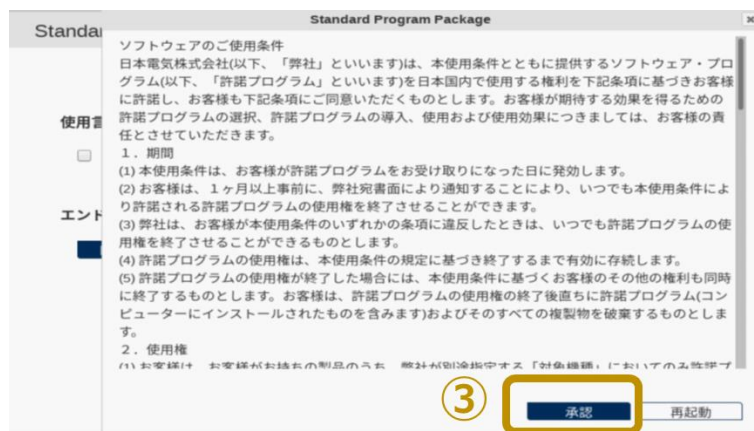
しばらくすると、下記画面が表示されますので、「Japanese」(①)を選択した後、「Read (開く)」(②)をクリックします。





上記画面が表示されるまで、約 7 分ほどかかります。

ソフトウェア使用許諾画面が表示されますので、内容を確認して「承認」(③)をクリックします。

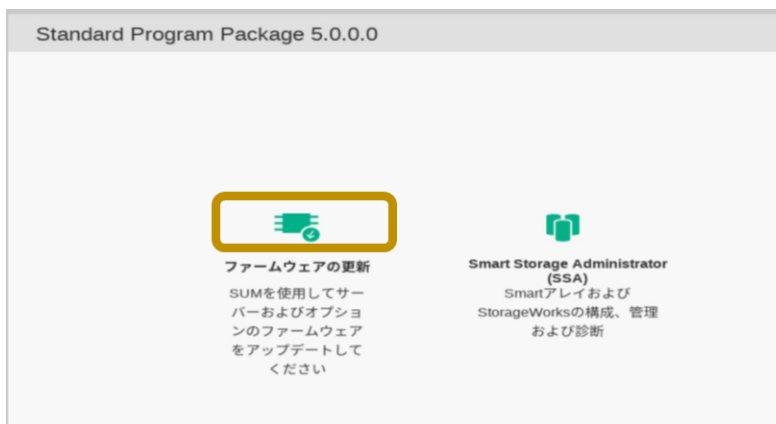


最後に、下記画面が表示されますので、「次へ」(④)をクリックします。



[step.1-08] ファームウェア更新ソフトウェア(SUM)の起動

下記画面が表示されたならば、「ファームウェアの更新」を選択します。



上記[ファームウェアの更新]を押下したら、画面遷移するまで、何も操作しないでください。

画面遷移しない状態で上記[ファームウェアの更新]を複数回押下すると、Smart Update

Manager (SUM) ログイン画面が表示されてしまう場合があります。これは期待外の挙動です。

もし Smart Update Manager (SUM) ログイン画面が表示されてしまったならば、一旦本体装置を電源 OFF した上で再実行願います。



下記画面がポップアップ表示された場合は、「ベースラインまたはインストールセット」(①)が選択されていることを確認し、そのまま「OK」(②)をクリックしてください。



[step.1-09] ファームウェアインベントリの完了待ち

下記「手順 1 インベントリ」画面に切り替わり、ファームウェアのインベントリが開始されます。下記①箇所「インベントリ完了」と表示されるまで、しばらくお待ちください。

①箇所に「インベントリ完了」と表示されましたら、「次へ」(②)をクリックします。



インベントリ完了まで、約 10 分ほどかかります。

[step.1-10] ファームウェアの選択

A. ファームウェアの選択

下記「手順 2 レビュー」画面が表示され、インベントリされたファームウェアが一覧表示されますので、更新するファームウェアを選択します。

手順 1 インベントリ 手順 2 レビュー 手順 3 展開

展開サマリー

▼ localhost 適用可能なコンポーネント

適用可能なコンポーネント: 11
推奨されたコンポーネント: 1
選択されたコンポーネント: 1

☐ すべて選択 ☐ すべて選択解除

検索

コンポーネントを選択	パッケージ	準備完了	タイプ	重要度	インストール済みバージョン	利用可能なバージョン	起動が必要
☒ 選択済み	HPE Firmware Flash for Emulex Fibre Channel Host Bus Adapters for Linux (x64) (firmware-fc-emulex-2019.03.01-1.29.x86_64)		ファームウェア	推奨	詳細の参照	2019.03.01	必須
☒ 強制	Supplemental Update / Online ROM Flash Component for Linux (x64) - EH4300JDXBA, EH450JDXBB, and EH4600JDXBC Drives (firmware-hba-icbae9770-HPD5-3.1.x86_64)		ファームウェア	推奨	詳細の参照	HPD5	環境に依存
☒ 強制	Online Flash for Linux - Innovation Engine Firmware for servers using Intel Xeon Scalable 3100/3200/4100/4200/5100/5200/6100/6200/8100/8200 series Processors (firmware-ie-0.2.0.11-2.1.x86_64)		ファームウェア	オプション	詳細の参照	0.2.0.11	必須
☒ 強制	Online ROM Flash Component for Linux - iLO 5 (firmware-ilo5-1.40-1.1.x86_64)		ファームウェア	推奨	2.14	1.40	いいえ
☒ 強制	Language Pack - Japanese (firmware-lpk-80-1.30-1.1.x86_64)		ファームウェア	推奨	2.14	1.30	いいえ
☒ 強制	HPE Broadcom NX1 Online Firmware Upgrade Utility for Linux x86_64 (firmware-nic-broadcom-2.23.10-1.1.x86_64)		ファームウェア	オプション	詳細の参照	2.23.10	必須
☒ 強制	Online ROM Flash for Linux - Advanced Power Capping Microcontroller Firmware for servers using Intel Xeon Scalable 3100/4100/5100/6100/8100 series Processors (firmware-powerpc-1.0.4-1.1.x86_64)		ファームウェア	オプション	詳細の参照	1.0.4	いいえ
☒ 強制	Supplemental Update / Online ROM Flash Component for Linux (x64) - HPE 12Gb/s SAS Expander Firmware for HPE Smart Array Controllers and HPE HBA Controllers (firmware-smartarray-20e130e882-4.21-1.1.x86_64)		ファームウェア	オプション	詳細の参照	4.21	必須
☐ 選択済み	Supplemental Update / Online ROM Flash Component for Linux (x64) - HPE		ファームウェア	推奨	2.05	1.98	必須



上記「手順 2 レビュー」画面の「利用可能なバージョン」欄に表示される情報は、ファームウェアバージョンとは限りませんので、当該情報は無視してください。

ファームウェア(パッケージ)とデバイスの対応を、下記<Table 6-1 ファームウェア(パッケージ)とデバイス対応表>に記載します。

Table 6-1 ファームウェア(パッケージ)とデバイス対応表

パッケージ (*a)	参考情報 (対応デバイス)	備考
(firmware-system-oem-u46- …) (OEM.U46_…)	Mother Board (System ROM)	(*03)
(firmware-ie- …) (OEM.IEGen10Plus_…)	Mother Board (IE)	(*03)
(firmware-sps- …)	Mother Board (SPS)	
(firmware-ilo5- …) (ilo5_ …)	Mother Board (iLO 5)	(*03)
(firmware-ilo5-lpk- …)	Mother Board (language pack)	
(firmware-smartarray-f7c0…) (HPE_SR_Gen10_…) (HPE_E208e-p_…)	RAID/SAS [NE3303-190/191/201/197]	(*01), (*03), (*05), (*06)
(HPE_SRXXX_Gen10P_…) (HPE_SR416_SR932_Gen10P_…)	RAID [NE3303-237/238]	(*01), (*03)
(firmware-9041739931- …) (HPE_NS204i_…)	OS ブート専用ボード [NE3303-239]	(*01), (*03)
(firmware-nic-is-intel- …)	NIC (1G, T) [NE3304-206/209]	(*01)
(bcm…pup)	NIC (10G, T) [NE3304-217/219]	(*01)
(HPE_E810_XXVDA2_SD_OCP_…)	NIC (10/25G, SFP) [NE3304-208]	(*01)
(HPE_E810_XXVDA2_SD_…)	NIC (10/25G, SFP) [NE3304-212]	(*01)

(firmware-fc-emulex- …)	FC [NE3390-163/164/171/172]	(*01)
(firmware-fc-qlogic- …)	FC [NE3390-165]	(*01)
(*a) 「手順 2 レビュー」画面の「パッケージ」欄に表示される文字列の一部です。 (*01) 本体装置構成に依っては表示されない場合があります。 (*03) 使用する Starter Pack に依って、何れかのパッケージ名称となります。 (*05) 本体装置構成あるいは使用する Starter Pack に依っては、複数のパッケージ名称が表示される場合があります。 (*06) 下記「ヒント A」をお読みください。		

「手順 2 レビュー」画面において、「コンポーネントを選択」欄を確認します。



- ファームウェア更新対象デバイスのファームウェア(パッケージ)に対して、「コンポーネントを選択」欄が「選択 (灰色バー)」または「強制 (灰色バー)」であるならば、当該ボタンをクリックし、「選択済み (青色バー)」または「強制 (青色バー)」に変更してください。



- それ以外の全てのファームウェア(パッケージ)に対して、「コンポーネントを選択」欄が「選択済み (青色バー)」または「強制 (青色バー)」であるならば、当該ボタンをクリックし、「選択 (灰色バー)」または「強制 (灰色バー)」に変更してください。

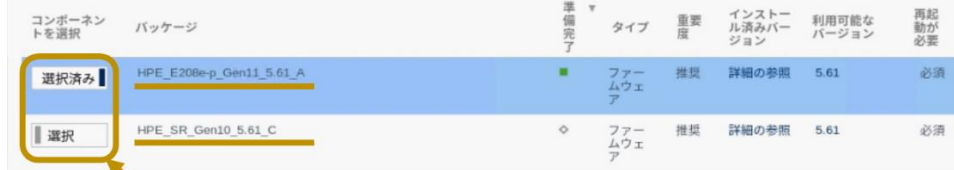




ヒント
A

パッケージ: (HPE_SR_Gen10_…) 及び (HPE_E208e-p_…) の選択に関して

「手順 2 レビュー」画面の「パッケージ」欄において、(HPE_SR_Gen10_…) 及び (HPE_E208e-p_…) の文字列を含むパッケージが表示された場合、どちらか一方のパッケージの「コンポーネントを選択」欄を、「選択済み (青色バー)」または「強制 (青色バー)」に変更し、もう一方のパッケージの「コンポーネントを選択」欄を、「選択 (灰色バー)」または「強制 (灰色バー)」に変更してください。

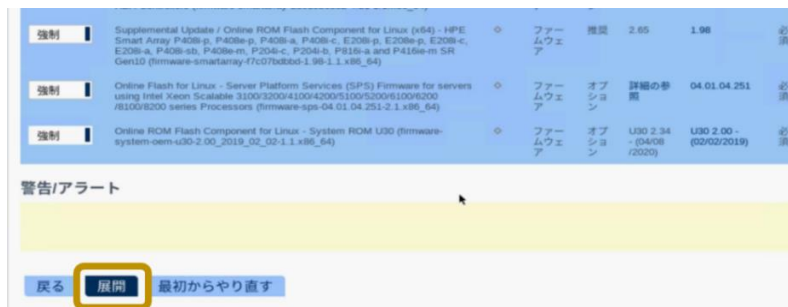


(HPE_SR_Gen10_…) 及び (HPE_E208e-p_…) の文字列を含んでいるパッケージが表示された場合、どちらか一方のパッケージのここを、**選択済み** または **強制** に変更し、もう一方のパッケージのここを、**選択** または **強制** に変更する。

	どちらか一方のパッケージだけが、「選択済み (青色バー)」または「強制 (青色バー)」に設定できます。
---	--

B. ファームウェアの展開

ファームウェア(パッケージ)の選択が完了しましたら、「手順 2 レビュー」画面の最下部の「展開」をクリックします。



[step.1-11] ファームウェア展開の完了待ち及び結果確認

A. ファームウェア展開の完了待ち

ファームウェアの展開が開始されると、下記「手順 3 展開」画面が表示されますので、全てのファームウェアの展開が完了するまで、しばらくお待ちください。

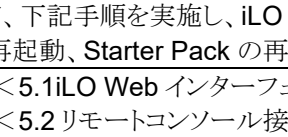


 1つのファームウェアの展開が完了するまで、約 3～5 分ほどかかります。



重要

Mother Board(iLO 5)或いは Mother Board(language pack)の展開が完了すると、iLO がリセットされ、下記のようなポップアップ画面が表示され、リモートコンソール及び iLO Web インターフェースが切断されます。(最大 3 回 iLO がリセットされます)

よって、下記手順を実施し、**iLO Web** コンソールへの再接続・ログイン、リモートコンソールの再起動、**Starter Pack** の再マウントを行ってください。

1. <5.1iLO Web インターフェース接続方法>
2. <5.2 リモートコンソール接続方法>
3. <5.3Starter Pack のマウント方法>

また、下記ポップアップ画面が表示されましたら、端末パソコンの **Web** ブラウザのキャッシュをクリアしてから、**iLO Web** コンソールに再接続・ログインしてください。



B. ファームウェア展開の結果確認

全てのファームウェアの展開が完了すると、下記「手順 3 展開」画面の①箇所に、「展開が完了しました」と表示されます。

展開が完了しましたら、更新対象ファームウェア(パッケージ)の左端に表示されているステータスアイコン(②箇所)が全て緑色であることを確認してください。



ヒント

下図のように、パッケージのステータスアイコンが赤色になっている場合、ファームウェア展開に失敗したことになります。

その場合は、＜7.2 [TS-02] ファームウェア展開が失敗した＞に記載する対処を行ってください。

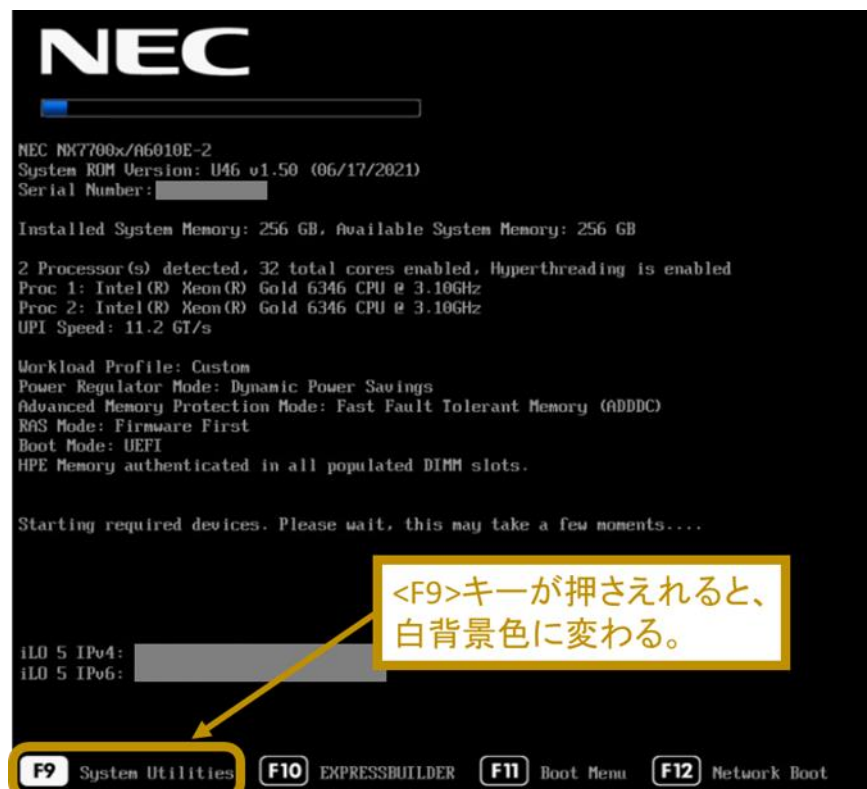
C. 本体装置の再起動

下記「手順 3 展開」画面最下部の「再起動」(①)をクリックします。
 そうすると、「再起動」のポップアップ画面が表示されますので、「はい、再起動します」をクリックします。



[step.2-01] System Utilities の起動

再起動後、リモートコンソールが下記画面表示になったならば、<F9>キーを押して System Utilities を起動します。

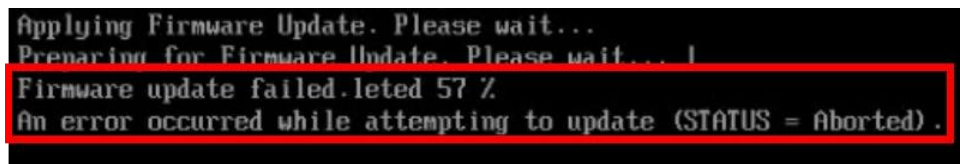


上記 POST 画面表示のタイミングで、最大 2 回再起動する場合があります。これは、展開されたファームウェアを反映させるための動作であり、この処理に最大約 30 分ほどかかります。



当該 POST のタイミングで、下記(A)及び(B)の現象が起きる場合があります。

(A) POST 画面に、下図赤線枠内のメッセージが表示される。



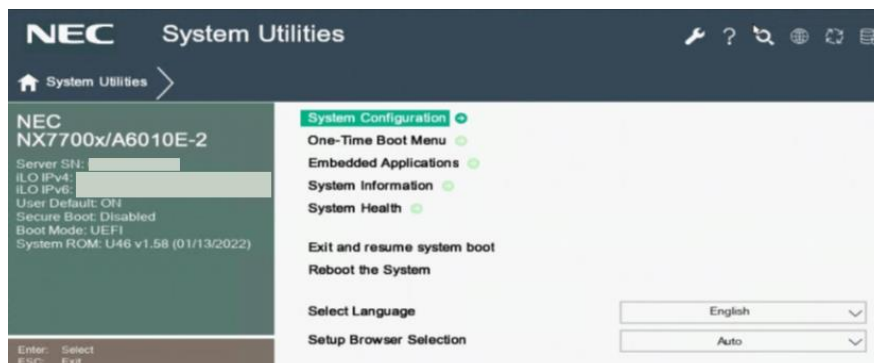
(B) iLO Web インターフェースに、下図赤背景色のメッセージがポップアップ表示される。



もしこれら現象が起きた場合でも、このタイミングでは何も操作しないでください。

これら現象に対する対処は、以降の<[step.2-02] ファームウェア更新の結果確認>にて行います。

System Utilities が起動すると、リモートコンソールが下記画面表示に切り替わります。



[step.2-02] ファームウェア更新の結果確認

A. ファームウェア更新エラー有無の確認

iLO Web インターフェースにおいて、下図赤背景色のメッセージがポップアップ表示されているか否かを確認します。



- 上記赤背景色のメッセージがポップアップ表示されているならば、
<7.1[TS-01] iLO Web インターフェースに、ファームウェアアップデート失敗の旨のメッセージが表示される>に記載されている対処を実施してください。
- 上記赤背景色のメッセージがポップアップ表示されていないならば、
次の「B. ファームウェア完了の確認」に進みます。

 ヒント	下記 2 種類のファームウェアは、前記<[step.2-01] System Utilities の起動>のタイミングでファームウェア更新が行われます。 よって、このタイミングで、下記 2 種類のファームウェア更新が正常に行われたか否かを確認します。 - Server Platform Services (SPS) Firmware - Innovation Engine (IE) Firmware
--	---

B. ファームウェア更新完了の確認

この時点におけるファームウェア更新が全て完了しているか否かを確認します。

具体的には、iLO Web インターフェースのメニューフレームにて「ファームウェア & OS ソフトウェア」(①)をクリックし、「インストールキュー」タブ(②)をクリックします。
そして、表示されているタスク一覧(③)内の「状態」列(④)を確認します。



- 「状態」が「保留」或いは「進行中」であるタスクが存在する場合、全てのタスクが「完了」するまで、待ち合わせます。



重要

待ち合わせしている際、本体装置が数回再起動する場合があります。再起動すると、リモートコンソールが下記 POST 画面表示になりますので、<F9>キーを押して **System Utilities** を起動してください。

System Utilities が起動すると、リモートコンソールが下記画面表示に切り替わります。

そして、『全てのタスクが「完了」し、且つ **System Utilities** が起動している』ならば、

[Case.1] 更新対象ファームウェアに **System ROM** ファームウェアが含まれる場合

次の<[step.2-03] "Redundant System ROM" ファームウェアバージョンの確認>に進みます。

[Case.2] 更新対象ファームウェアに **System ROM** ファームウェアが含まれない場合

以降の<[step.3-02] Starter Pack ファイルのマウント解除>に進みます。

- 「状態」が「保留」或いは「進行中」であるタスクが存在しない、あるいはタスク自体が存在しない場合は、

[Case.1] 更新対象ファームウェアに System ROM ファームウェアが含まれる場合

次の<[step.2-03] "Redundant System ROM" ファームウェアバージョンの確認>に進みます。

[Case.2] 更新対象ファームウェアに System ROM ファームウェアが含まれない場合

以降の<[step.3-02] Starter Pack ファイルのマウント解除>に進みます。

 ヒント	ファームウェア更新は、基本、<[step.1-11] ファームウェア展開の完了待ち及び結果確認>の「A. ファームウェア展開の完了待ち」のタイミングで行われます。 しかし、ファームウェアによっては、上記タイミングにて、ファームウェア更新パッケージを iLO のインストールキューに登録し、その後の本体装置再起動後にファームウェア更新する場合もあります。 本作業は、この「本体装置再起動後にファームウェア更新する」場合に適応させるものです。
---	--

[step.2-03] "Redundant System ROM" ファームウェアバージョンの確認

 重要	[step.2-03] ~[step.3-01] までの手順は、System ROM ファームウェアを更新するときのみ実施します。
---	--

 ヒント	本体装置の Mother Board に収録される System ROM は 2 バンク構成になっています。そこで、このタイミングで、Redundant バンク側の System ROM ファームウェアの更新要否を判断します。
---	--

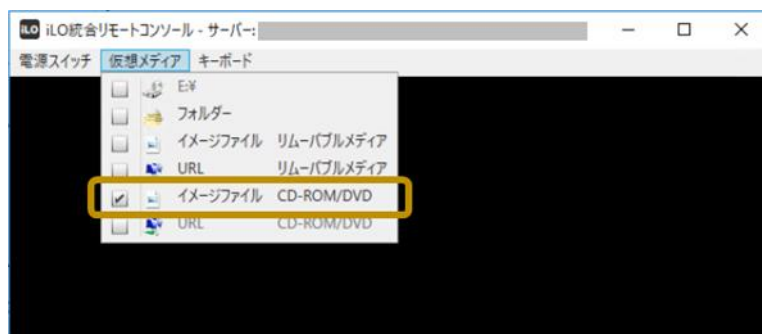
<8.1.1iLO Web コンソールでの確認方法>を参照して、下記ファームウェア名のバージョンを確認します。

ファームウェア名	ファームウェアバージョン	参考情報 (対応デバイス)
System ROM		Mother Board (System ROM)
Redundant System ROM		

- "Redundant System ROM" バージョンが "System ROM" バージョンと★異なる★ならば、Redundant バンク側の System ROM ファームウェア更新が必要です。
次の<[step.2-04] Starter Pack ファイルのマウント状態の確認>に進みます。
- "Redundant System ROM" バージョンが "System ROM" バージョンと★同じ★ならば、Redundant バンク側の System ROM ファームウェア更新は不要です。
以降の<[step.3-02] Starter Pack ファイルのマウント解除>に進みます。

[step.2-04] Starter Pack ファイルのマウント状態の確認

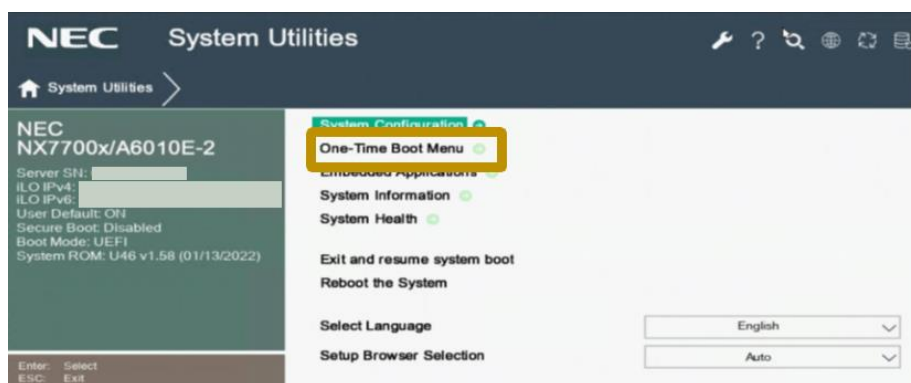
リモートコンソールにおいて、Starter Pack のマウント状態を確認します。
具体的には、リモートコンソールの[仮想メディア]をクリックし、[イメージファイル CD-ROM/DVD]にチェック(レ点)が付いていることを確認します。



もしチェック(レ点)が付いていなければ、前記<5.3Starter Pack のマウント方法>を参照して、再度 Starter Pack をマウントします。

[step.2-05] Boot Menu の起動

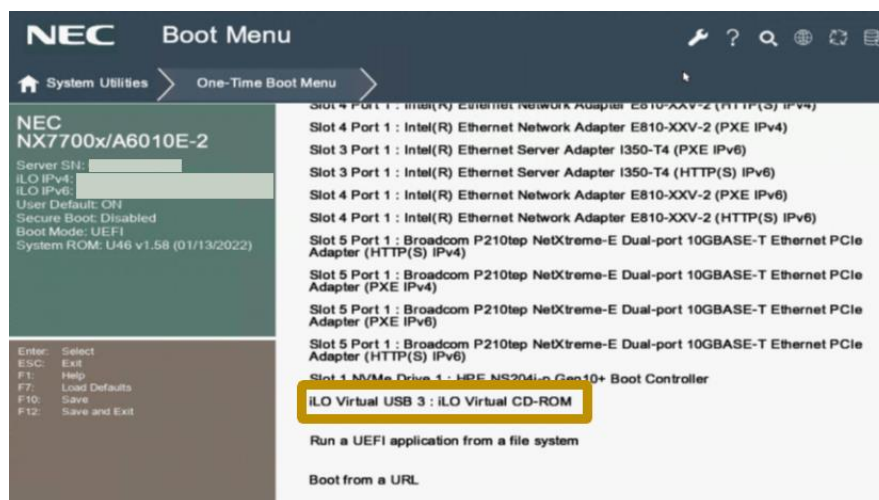
リモートコンソールに表示されている System Utilities 画面において、「One-Time Boot Menu」を選択します。



[step.2-06] Starter Pack の起動

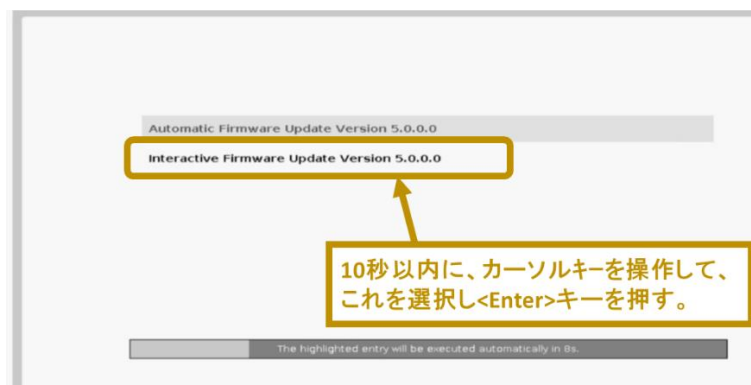
A. 起動デバイスの選択

リモートコンソールに表示されているブートメニューにおいて、「iLO Virtual USB 3: iLO Virtual CD-ROM」を選択します。



B. Interactive モードの選択

下記画面が表示されたならば、★10 秒以内★に、カーソルキーを操作して、「Interactive Firmware Update ...」を選択し、<Enter キー>を押します。



 重要	10 秒以内に選択操作をしなかった場合、「Automatic Firmware Update ...」が選択され、自動的にファームウェア更新が行われてしまいます。
--	--

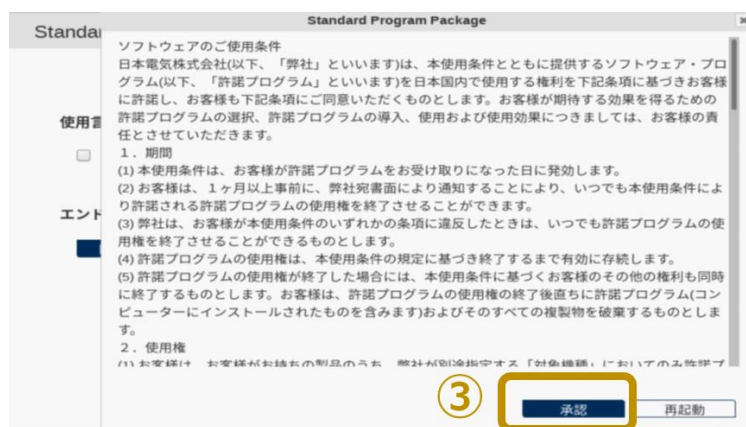
C. ソフトウェア使用許諾

しばらくすると、下記画面が表示されますので、「Japanese」(①)を選択した後、「Read (開く)」(②)をクリックします。



 ヒント	上記画面が表示されるまで、約 7 分ほどかかります。
---	-----------------------------------

ソフトウェア使用許諾画面が表示されますので、内容を確認して「承認」(③)をクリックします。

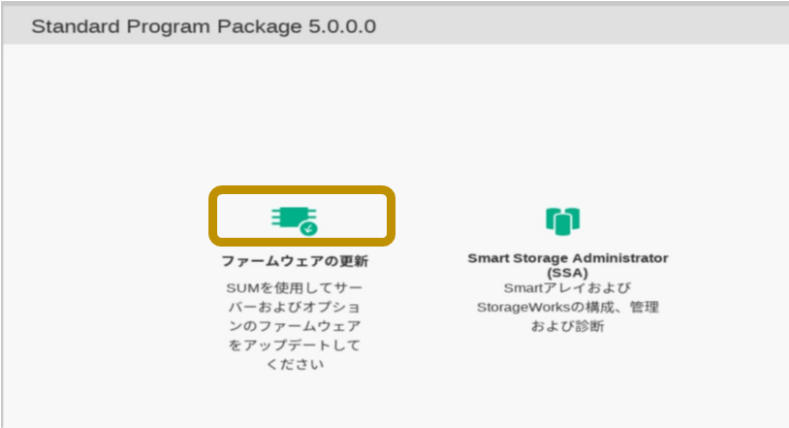


最後に、下記画面が表示されますので、「次へ」(④)をクリックします。



[step.2-07] ファームウェア更新ソフトウェア(SUM)の起動

下記画面が表示されたならば、「ファームウェアの更新」を選択します。



 重要	上記[ファームウェアの更新]を押下したら、画面遷移するまで、何も操作しないでください。 画面遷移しない状態で上記[ファームウェアの更新]を複数回押下すると、Smart Update Manager (SUM) ログイン画面が表示されてしまう場合があります。これは期待外の挙動です。 もし Smart Update Manager (SUM) ログイン画面が表示されてしまったならば、一旦本体装置を電源 OFF した上で再実行願います。
 ヒント	下記画面がポップアップ表示された場合は、「ベースラインまたはインストールセット」(①)が選択されていることを確認し、そのまま「OK」(②)をクリックしてください。



[step.2-08] ファームウェアインベントリの完了待ち

下記「手順 1 インベントリ」画面に切り替わり、ファームウェアのインベントリが開始されます。
下記①箇所「インベントリ完了」と表示されるまで、しばらくお待ちください。

①箇所「インベントリ完了」と表示されましたら、「次へ」(②)をクリックします。



インベントリ完了まで、約 10 分ほどかかります。

[step.2-09] ファームウェアの選択

A. ファームウェアの選択

下記「手順 2 レビュー」画面が表示され、インベントリされたファームウェアが一覧表示されますので、更新するファームウェアを選択します。



コンポーネントを選択	パッケージ	準備完了	タイプ	重要度	インストール済みバージョン	利用可能なバージョン	起動が必要
選択済み	HPE Firmware Flash for Emulex Fibre Channel Host Bus Adapters for Linux (x64) (firmware-fc-emulex-2019.03.01-1.29.x86_64)		ファームウェア	推奨	詳細の参照	2019.03.01	必須
強制	Supplemental Update / Online ROM Flash Component for Linux (x64) - EH0300JDXBA, EH0450JDXBB, and EH0600JDXBC Drives (firmware-hdd-1c9ab977f0-HPD5-3.1.x86_64)		ファームウェア	推奨	詳細の参照	HPD5	環境に依存
強制	Online Flash for Linux - Innovation Engine Firmware for servers using Intel Xeon Scalable 3100/3200/4100/4200/5100/5200/6100/6200/8100/8200 series Processors (firmware-ie-0.2.0.11-2.1.x86_64)		ファームウェア	オプション	詳細の参照	0.2.0.11	必須
強制	Online ROM Flash Component for Linux - iLO 5 (firmware-ilo5-1.40-1.1.x86_64)		ファームウェア	推奨	2.14	1.40	いいえ
強制	Language Pack - Japanese (firmware-lpk-ilo-1.30-1.1.x86_64)		ファームウェア	推奨	2.14	1.30	いいえ
強制	HPE Broadcom NX1 Online Firmware Upgrade Utility for Linux x86_64 (firmware-nic-broadcom-2.23.10-1.1.x86_64)		ファームウェア	オプション	詳細の参照	2.23.10	必須
強制	Online ROM Flash for Linux - Advanced Power Capping Microcontroller Firmware for servers using Intel Xeon Scalable 3100/3200/4100/4200/5100/5200/6100/6200 series Processors (firmware-powercap-1.0.4-1.1.x86_64)		ファームウェア	オプション	詳細の参照	1.0.4	いいえ
強制	Supplemental Update / Online ROM Flash Component for Linux (x64) - HPE 12Gb/s SAS Expander Firmware for HPE Smart Array Controllers and HPE HBA Controllers (firmware-smartarray-3de15b6882-4.21-1.1.x86_64)		ファームウェア	オプション	詳細の参照	4.21	必須
強制	Supplemental Update / Online ROM Flash Component for Linux (x64) - HPE		ファームウェア	推奨	2.05	1.98	必須



上記「手順 2 レビュー」画面の「利用可能なバージョン」欄に表示される情報は、ファームウェアバージョンとは限りませんので、当該情報は無視してください。

更新するファームウェア(パッケージ)を、下記<Table 6-2 更新対象ファームウェア(パッケージ) ~2 回目~>に記載します。

Table 6-2 更新対象ファームウェア(パッケージ) ~2 回目~

パッケージ (*a)	参考情報 (対応デバイス)	備考
(firmware-system-oem-u46- …) (OEM.U46_…)	Mother Board (System ROM)	(*01)

(*a) 「手順 2 レビュー」画面の「パッケージ」欄に表示される文字列の一部です。

(*01) 使用する Starter Pack に依って、何れかのパッケージ名称となります。

「手順 2 レビュー」画面において、「コンポーネントを選択」欄を確認します。

コンポーネントを選択	パッケージ	準備完了	タイプ	重要度	インストール済みバージョン	利用可能なバージョン	起動が必要
選択済み	HPE Firmware Flash for Emulex Fibre Channel Host Bus Adapters for Linux (x64) (firmware-fc-emulex-2019.03.01-1.29.x86_64)		ファームウェア	推奨	詳細の参照	2019.03.01	必須
強制	Supplemental Update / Online ROM Flash Component for Linux (x64) - EH0300JDXBA, EH0450JDXBB, and EH0600JDXBC Drives (firmware-hdd-1c9ab977f0-HPD5-3.1.x86_64)		ファームウェア	推奨	詳細の参照	HPD5	環境に依存
強制	Online Flash for Linux - Innovation Engine Firmware for servers using Intel Xeon Scalable 3100/3200/4100/4200/5100/5200/6100/6200/8100/8200 series Processors (firmware-ie-0.2.0.11-2.1.x86_64)		ファームウェア	オプション	詳細の参照	0.2.0.11	必須
強制	Online ROM Flash Component for Linux - iLO 5 (firmware-ilo5-1.40-1.1.x86_64)		ファームウェア	推奨	2.14	1.40	いいえ

- 更新対象ファームウェア(パッケージ)に対して、「コンポーネントを選択」欄が「選択 (灰色バー)」または「強制 (灰色バー)」であるならば、当該ボタンをクリックし、「選択済み (青色バー)」または「強制 (青色バー)」に変更してください。

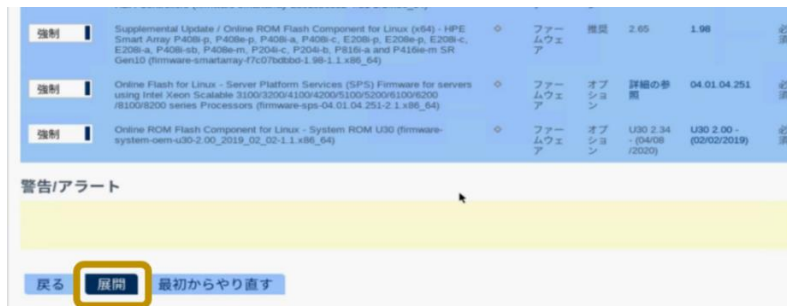


- それ以外の全てのファームウェア(パッケージ)に対して、「コンポーネントを選択」欄が「選択済み (青色バー)」または「強制 (青色バー)」であるならば、当該ボタンをクリックし、「選択 (灰色バー)」または「強制 (灰色バー)」に変更してください。



B. ファームウェアの展開

ファームウェア(パッケージ)の選択が完了しましたら、「手順 2 レビュー」画面の最下部の「展開」をクリックします。



[step.2-10] ファームウェア展開の完了待ち及び結果確認

A. ファームウェア展開の完了待ち

ファームウェアの展開が開始されると、下記「手順 3 展開」画面が表示されますので、全てのファームウェアの展開が完了するまで、しばらくお待ちください。



全てのファームウェアの展開が完了するまで、最大約 5 分ほどかかります。

B. ファームウェア展開の結果確認

全てのファームウェアの展開が完了すると、下記「手順 3 展開」画面の①箇所に、「展開が完了しました」と表示されます。

展開が完了しましたら、更新対象ファームウェア(パッケージ)の左端に表示されているステータスアイコン(②箇所)が全て緑色であることを確認してください。



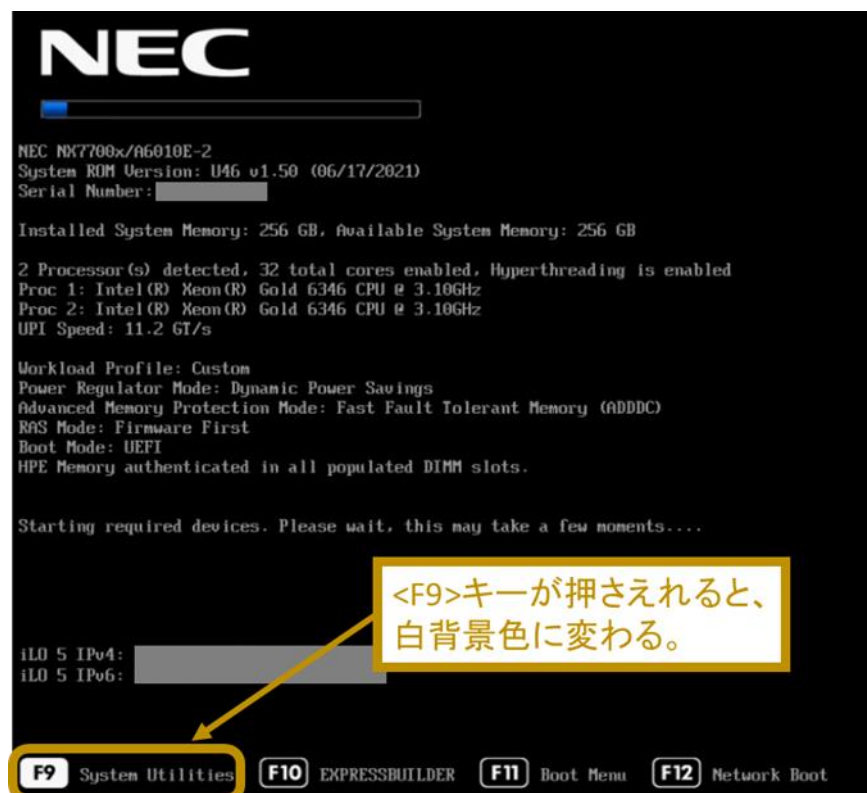
C. 本体装置の再起動

下記「手順 3 展開」画面最下部の「再起動」(①)をクリックします。
 そうすると、「再起動」のポップアップ画面が表示されますので、「はい、再起動します」をクリックします。

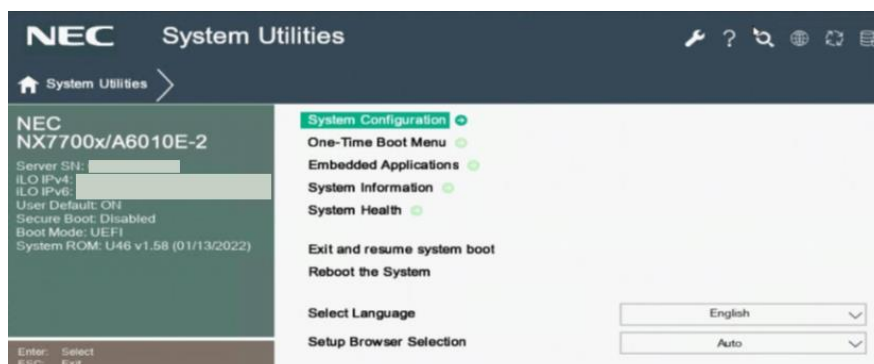


[step.3-01] System Utilities の起動

再起動後、リモートコンソールが下記画面表示になったならば、<F9>キーを押して System Utilities を起動します。



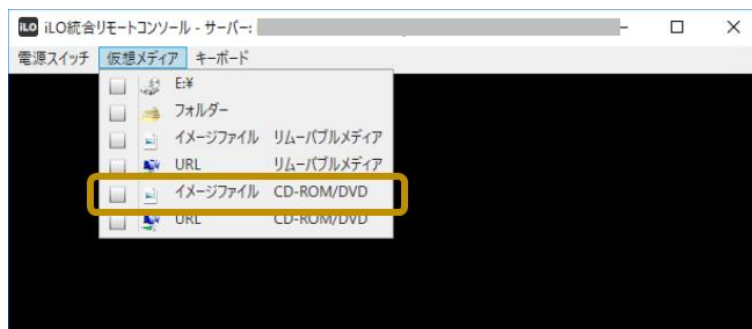
System Utilities が起動すると、リモートコンソールが下記画面表示に切り替わります。



[step.3-02] Starter Pack ファイルのマウント解除

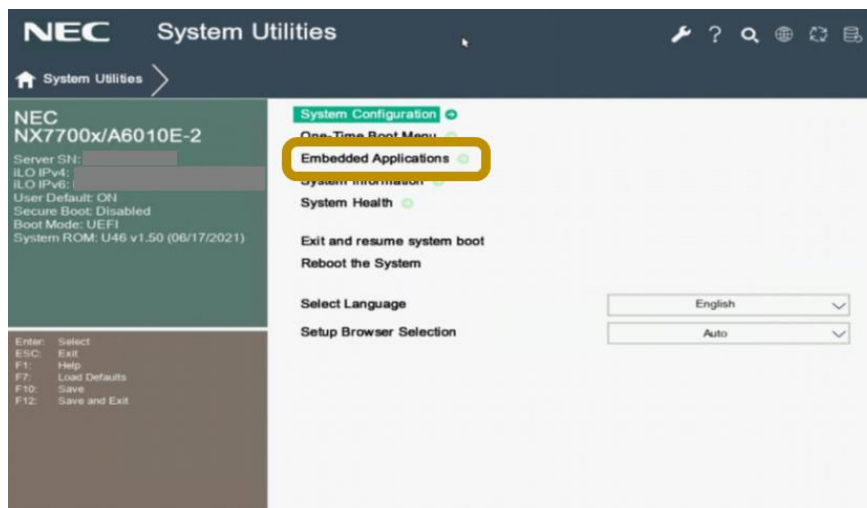
リモートコンソールにおいて、Starter Pack ファイルのマウントを解除します。
 具体的には、リモートコンソールの[仮想メディア]をクリックし、[イメージファイル CD-ROM/DVD]にチェック(レ点)が付いていないか否かを確認します。

もしチェック(レ点)が付いていれば、チェック(レ点)を外します。



[step.3-03] UEFI Shell の起動

リモートコンソールに表示されている System Utilities 画面において、「Embedded Applications」 → 「Embedded UEFI Shell」を選択します。



[step.3-04] 本体装置の電源 OFF

リモートコンソールにて UEFI Shell が起動したら、下記コマンドを入力して、本体装置を電源 OFF します。

```
Shell> reset -s
```



[step.3-05] 本体装置の AC OFF → ON

FW 更新を適切にデバイスに反映させるために、本体装置を {AC OFF → AC ON} させます。

A. 本体装置の AC OFF

本体装置前面の POWER ランプがアンバー色に点灯していることを確認した後、本体装置の全ての

電源コードを本体装置から抜き AC OFF してください。

	本体装置が電源 OFF だと、本体装置前面の POWER ランプがアンバー色に点灯します。 電源 ON だと、POWER ランプが緑色に点滅或いは点灯します。
---	---

B. 本体装置の AC ON

本体装置を AC OFF した後、30 秒以上経過後に、本体装置の全ての電源コードを本体装置に差し込み AC ON させてください。

そして、本体装置が AC ON 完了するまで待ち合わせます。

具体的には、本体装置前面の POWER ランプがアンバー色に点灯するまで待ち合わせます。

	本体装置によっては、AC-Link 機能が有効となっており、AC ON に連動して電源 ON される場合があります。 電源 ON された場合は、本体装置前面の POWER ランプが緑色に点滅或いは点灯します。 電源 ON されてしまった場合には、本体装置前面の POWER スイッチを 4 秒以上押し続けて、本体装置を電源 OFF してください。
---	--

[step.4-01] iLO Web インターフェースへの接続・ログイン

端末パソコンにて Web ブラウザを立ち上げ、本体装置の iLO Web インターフェースに接続・ログインします。

具体的な手順は、前記<5.1iLO Web インターフェース接続方法>を参照してください。

[step.4-02] iLO の設定

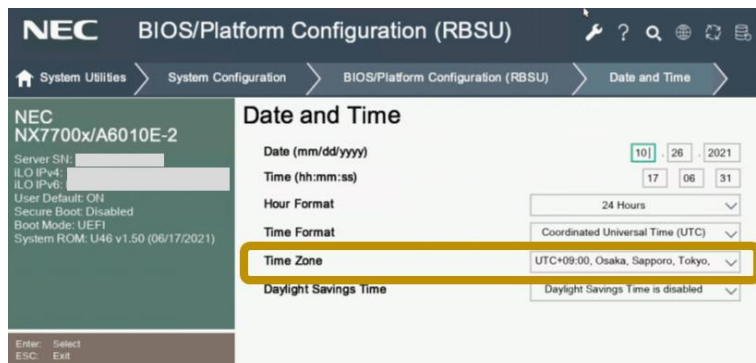
	本手順は、iLO 5 ファームウェアを更新した場合のみ実施します。
---	--

A. タイムゾーンの設定

- ① iLO Web インターフェースのメニューフレームにて「iLO 専用ネットワークポート」(①)をクリックし、「SNTP」タブ(②)をクリックします。
- そして、「タイムゾーン」項目(③)にてタイムゾーンを選択したのち、「適用」ボタン(④)をクリックします。



選択するタイムゾーンは、{System Utilities: [System Configuration] → [BIOS/Platform Configuration (RBSU)] → [Date and Time]}の「Time Zone」と同じタイムゾーンです。



 「GMT」は「UTC」に読み替えてください。

- ⑤ 「適用」ボタンをクリックすると、iLO Web インターフェースの画面上部に、「Reset iLO」ボタン (⑤) が表示されますので、当該ボタンをクリックします。
すると、画面右側に「iLO をリセット」フレームが表示されますので、「はい、リセットします」ボタン (⑥) をクリックします。



 「はい、リセットします」ボタン (⑥) をクリックすると、iLO がリセットされ、iLO Web インターフェースがログイン画面になります。

以上で、ファームウェア更新作業は終了です。

7. トラブルシューティング

Table 7-1 トラブルシューティング一覧

No.	トラブル概要
TS-01	iLO Web インターフェースに、ファームウェアアップデート失敗の旨のメッセージが表示される
TS-02	ファームウェア展開が失敗した

7.1. [TS-01] iLO Web インターフェースに、ファームウェアアップデート失敗の旨のメッセージが表示される

7.1.1. 現象

使用 Starter Pack	全て
発生タイミング (*a)	[step.2-02] ファームウェア更新の結果確認
(*a) 対象ファームウェア更新ガイドにおいて、現象が起きた手順箇所を表す。	

iLO Web インターフェースにおいて、下図赤背景色のメッセージがポップアップ表示されている。



	前記「発生タイミング」で当該現象が起きている場合、下記何れかのファームウェア更新が失敗したことになります。
	- Server Platform Services (SPS) Firmware - Innovation Engine (IE) Firmware
尚、更新失敗は、POST 時における更新モジュール実行タイミングに依るものであり、ハードウェア故障ではありません。	

7.1.2. 対処

更新失敗したファームウェアに対し、更新リトライを行います。
具体的な手順は下記の通りです。

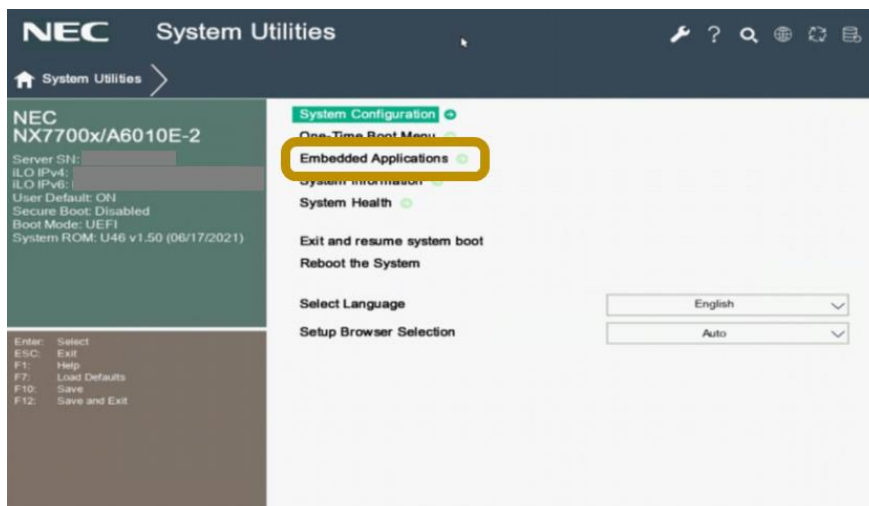
[step.TS01-01] 本体装置電源 OFF

リモートコンソールに System Utilities 画面が表示されている状態ですので、下記操作を行い、本体装置を電源 OFF します。

A. UEFI Shell の起動

リモートコンソールに表示されている System Utilities 画面において、「Embedded Applications」→

「Embedded UEFI Shell」を選択します。



B. 本体装置の電源 OFF

リモートコンソールにて UEFI Shell が起動したら、下記コマンドを入力して、本体装置を電源 OFF します。

```
Shell> reset -s
```



[step.TS01-02] 更新失敗ファームウェアコンポーネントの特定

A. 更新失敗タスク情報の表示

iLO Web コンソールのメニューフレームにて、「ファームウェア & OS ソフトウェア」(①)をクリックし、「インストールキュー」タブ(②)をクリックします。
そして、「状態」欄が「例外」と表示されているタスクの「名前」欄辺り(③)をクリックします。



B. 更新失敗ファームウェアコンポーネントの特定

下記のようなタスク情報がポップアップ表示されますので、「コンポーネント名」と「ファイル名」(①)を控えます。



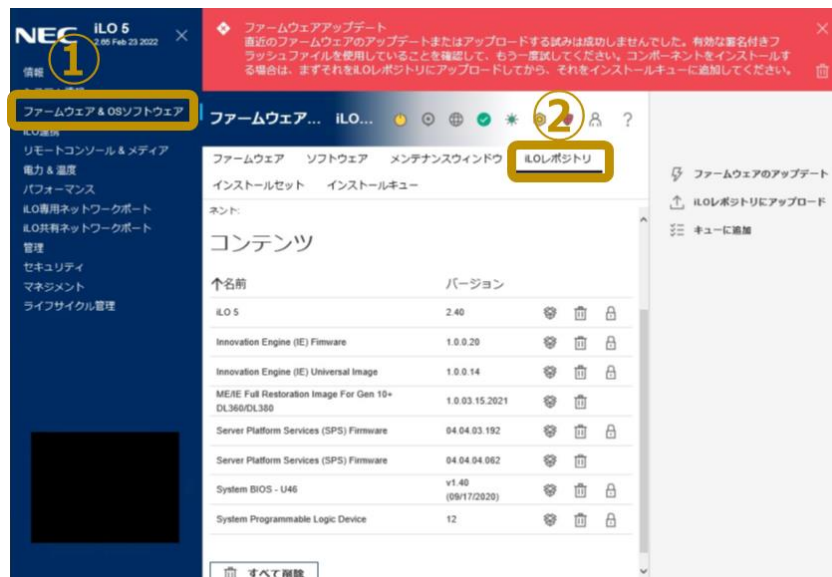
コンポーネント名	
ファイル名	

控え終えたら、ポップアップ画面の右上「X」印(②)をクリックして、ポップアップ画面を閉じます。

[step.TS01-03] インストールするファームウェアコンポーネントの特定

A. iLO レポジトリの表示

iLO Web コンソールのメニューフレームにて、「ファームウェア & OS ソフトウェア」(①)をクリックし、「iLO レポジトリ」タブ(②)をクリックします。

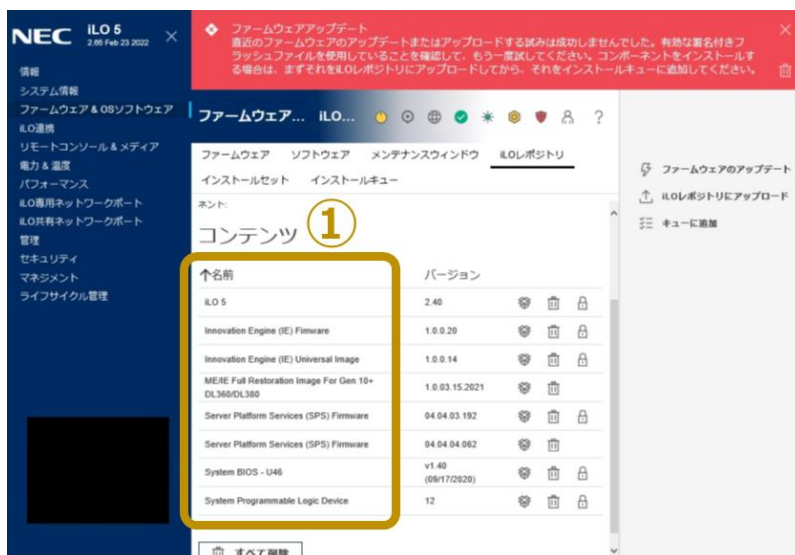


B. インストールするファームウェアコンポーネントの特定

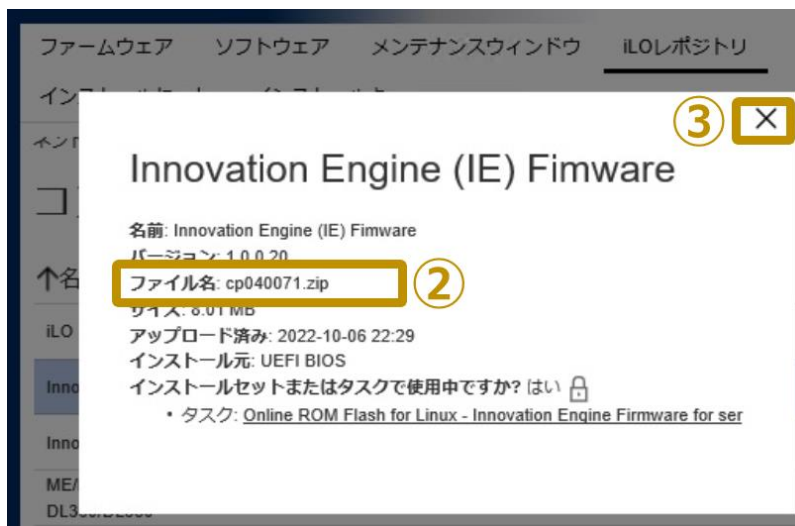
「iLO レポジトリ」タブの「コンテンツ」一覧の中から、前記<[step.TS01-02] 更新失敗ファームウェアコンポーネントの特定>にて控えたコンポーネント名及びファイル名と一致するコンポーネントを探します。

具体的には、

まず、「コンテンツ」一覧の「名前」欄(①)に表示されているコンポーネント名と、前記<[step.TS01-02] 更新失敗ファームウェアコンポーネントの特定>にて控えたコンポーネント名を見比べます。そして、一致するコンポーネント名をクリックします。



そうすると、下記のようなコンポーネント情報画面がポップアップ表示されますので、当該コンポーネント情報画面に表示されている「ファイル名」(②)と、前記<[step.TS01-02] 更新失敗ファームウェアコンポーネントの特定>にて控えたファイル名を見比べます。



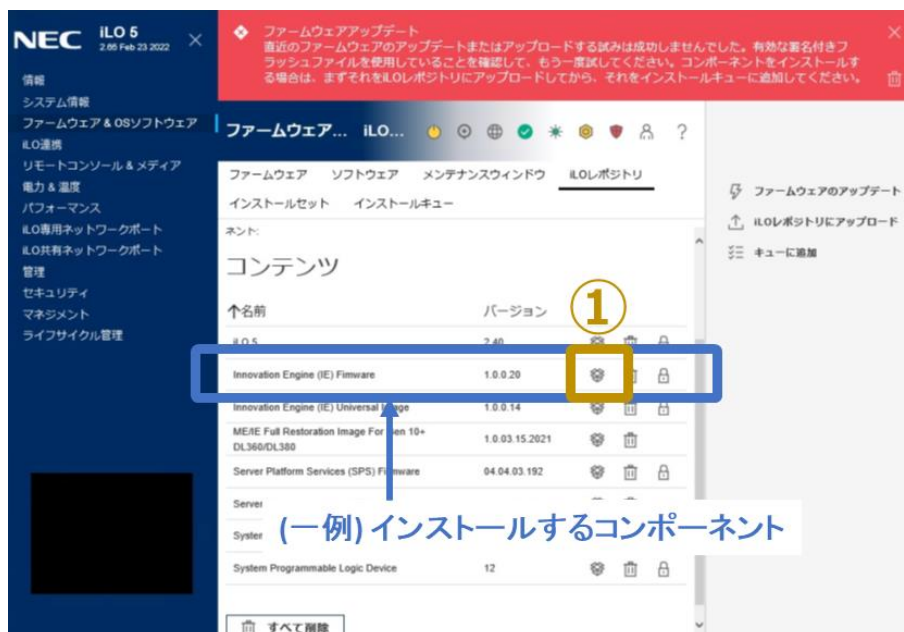
- ファイル名が一致するならば、当該コンポーネントが”インストールするファームウェアコンポーネント”です。
ポップアップ画面の右上「X」印(③)をクリックしてポップアップ画面を閉じた後、次の<[step.TS01-04] インストールするファームウェアコンポーネントのインストールキューへの追加>に進みます。
- ファイル名が一致しないならば、当該コンポーネントは”インストールするファームウェアコンポーネント”ではありません。
ポップアップ画面の右上「X」印(③)をクリックしてポップアップ画面を閉じた後、再度、「iLO レポジトリ」タブの「コンテンツ」一覧から、同一コンポーネント名の別コンポーネントを選択します。



「iLO レポジトリ」タブの「コンテンツ」一覧(①)には、同一コンポーネント名であるコンポーネントが複数存在する場合があります。

[step.TS01-04] インストールするファームウェアコンポーネントのインストールキューへの追加

「iLO レポジトリ」タブの「コンテンツ」一覧において、前記<[step.TS01-03] インストールするファームウェアコンポーネントの特定>で特定した”インストールするファームウェアコンポーネント”の  アイコン(①)をクリックします。



そうすると、iLO Web コンソール画面の右側に、「インストールコンポーネント」フレームがポップアップ表示されますので、「はい、キューの最後に追加」(②)をクリックします。



その後、iLO Web コンソールの「ファームウェア & OS ソフトウェア」→「インストールキュー」タブ画面に、“インストールするファームウェアコンポーネント”のタスクが追加されたことを確認します。(③)



[step.TS01-05] 更新失敗ファームウェアコンポーネントタスクの消去

iLO Web コンソールのメニューフレームにて、「ファームウェア & OS ソフトウェア」(①)をクリックし、「インストールキュー」タブ(②)をクリックします。

そして、「状態」欄が「例外」と表示されているタスク(③)の右端に在る  アイコンをクリックします。



そうすると、iLO Web コンソール画面の右側に、「タスクの削除」フレームがポップアップ表示されますので、「はい、削除」(⑤)をクリックします。



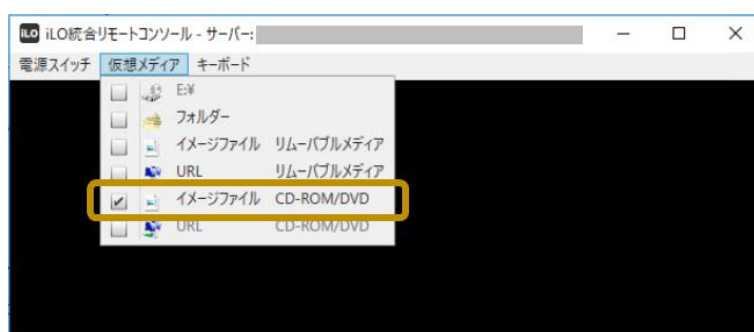
最後に、「インストールキュー」タブ画面において、「状態」欄が「例外」と表示されているタスクが存在しないことを確認した上で(⑥)、iLO Web インターフェース画面上部に表示されている赤背景色メッセージの右上の「X」印(⑦)をクリックし、当該メッセージを消去します。



例外状態のタスクが残ったままだと、新たにインストールキューに追加したタスクが実行されません。

[step.TS01-06] Starter Pack のマウント状態の確認

リモートコンソールにおいて、Starter Pack のマウント状態を確認します。
具体的には、リモートコンソールの[仮想メディア]をクリックし、[イメージファイル CD-ROM/DVD]にチェック(レ点)が付いていることを確認します。



もしチェック(レ点)が付いていなければ、前記<5.3 Starter Pack のマウント方法>を参照して、再度 Starter Pack をマウントします。

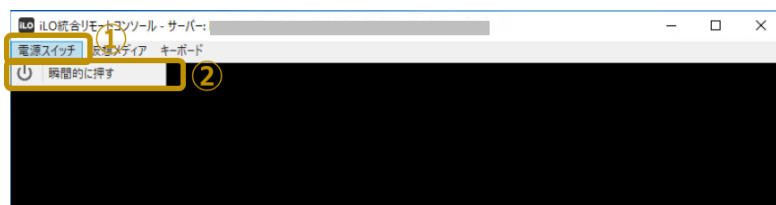
[step.TS01-07] 本体装置 電源 ON

本体装置の電源を ON します。
具体的には、下記何れかの操作を行います。

- 本体装置前面の POWER ボタンを押す。
- iLO Web インターフェースの[電力&温度] → [サーバー電源] → [瞬間的に押す]をクリックする。



- リモートコンソールの[電源スイッチ] → [瞬間的に押す]をクリックする。

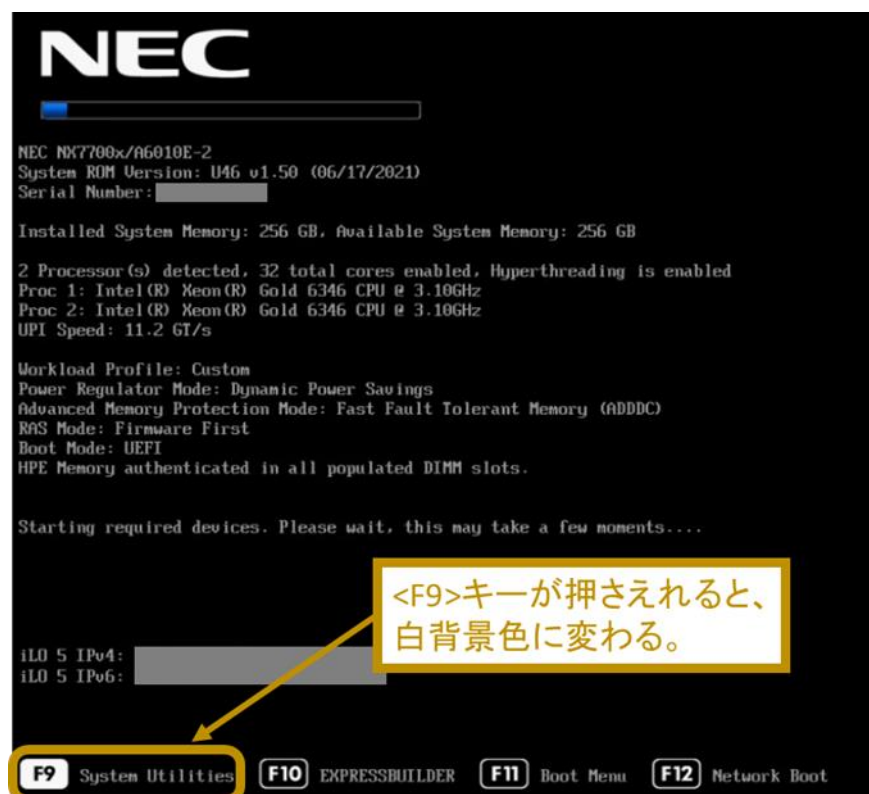


ヒント

リモートコンソールでのその他電源操作については、<8.2.1.3 本体装置の電源制御方法>に記載しております。

[step.TS01-08] System Utilities の起動

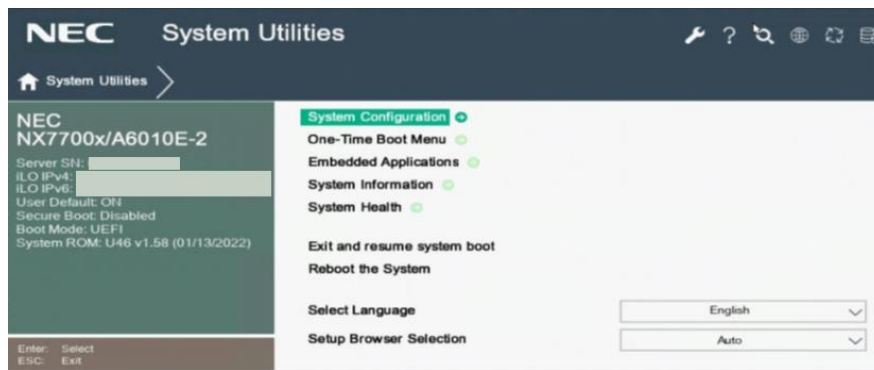
本体装置電源 ON 後、リモートコンソールが下記画面表示になったならば、<F9>キーを押して System Utilities を起動します。



ヒント

上記 POST 画面表示のタイミングで、最大 2 回再起動する場合があります。これは、前記<[step.TS01-04] インストールするファームウェアコンポーネントのインストールキューへの追加>において、インストールキューに追加したファームウェアコンポーネントを適用・反映させるための動作であり、この処理に最大約 30 分ほどかかります。

System Utilities が起動すると、リモートコンソールが下記画面表示に切り替わります。



以上で、本現象に対する対処は完了です。

前記<6 ファームウェア更新手順>に戻り、<[step.2-02] ファームウェア更新の結果確認>の「B. ファームウェア完了の確認」からファームウェア更新を再開してください。

7.2. [TS-02] ファームウェア展開が失敗した

7.2.1. 現象

使用 Starter Pack	全て
発生タイミング (*a)	[step.1-11] ファームウェア展開の完了待ち及び結果確認
(*a) 対象ファームウェア更新ガイドにおいて、現象が起きた手順箇所を表す。	

ファームウェア展開が完了したが、パッケージのステータスアイコンが赤色になっている。



7.2.2. 対処

対処概要は下記の通りです。

1. ファームウェア展開が成功 (パッケージのステータスアイコンが緑色)したファームウェア更新を完了させる。
2. iLO Web インターフェースの MCTP 設定を、一旦「無効」に設定した上で、再度「有効」に設定する。
3. ファームウェア展開が失敗したパッケージのみ、再度、ファームウェア展開する。

以降に、具体的な手順を記載します。

[step.TS02-01] ファームウェア展開失敗のパッケージ名を控える

「手順 3 展開」画面において、パッケージのステータスアイコンが赤色になっているパッケージのパッケージ名(コンポーネント名)を控えます。



[step.TS02-02] ファームウェア展開成功のファームウェア更新を完了させる

ファームウェア展開が成功 (パッケージのステータスアイコンが緑色) したファームウェア更新を完了させます。

具体的には、前記「6 ファームウェア更新手順」に記載する下記手順を実施します。

- ・ <[step.1-11] ファームウェア展開の完了待ち及び結果確認> の
「C. 本体装置の再起動」以降
- ↓
- ・ <[step.3-04] 本体装置の電源 OFF> 迄

[step.TS02-03] iLO Web インターフェースの MCTP 設定

iLO Web インターフェースの MCTP 設定を、一旦「無効」に設定した上で、再度「有効」に設定します。

iLO Web インターフェースの MCTP 設定方法については、<8.3MCTP 設定変更方法>の「iLO Web インターフェースの MCTP 設定変更方法」を参照願います。



これ以降の手順は、「ファームウェア展開が失敗したパッケージのみを再度ファームウェア展開する」ための手順です。

[step.TS02-11] iLO Web インターフェースへの接続・ログイン

端末パソコンにて Web ブラウザを立ち上げ、本体装置の iLO Web インターフェースに接続・ログインします。

具体的な手順は、前記<5.1iLO Web インターフェース接続方法>を参照してください。

[step.TS02-12] リモートコンソールの起動

iLO Web インターフェースからリモートコンソールを起動します。

具体的な手順は、前記<5.2 リモートコンソール接続方法>を参照してください。

[step.TS02-13] Starter Pack ファイルのマウント

ファームウェア展開が失敗した際に使用した Starter Pack ファイル (iso ファイル) が本体装置から見えるようにします。

具体的な手順は、前記<5.3 Starter Pack のマウント方法>を参照してください。

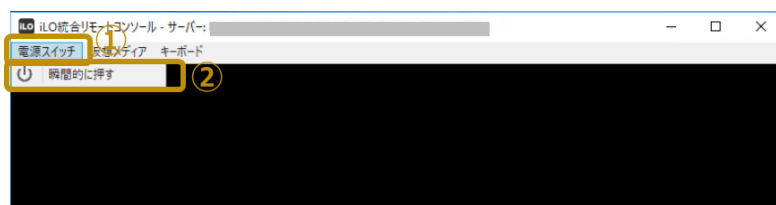
[step.TS02-14] 本体装置 電源 ON

本体装置の電源を ON します。
具体的には、下記何れかの操作を行います。

- 本体装置前面の POWER ボタンを押す。
- iLO Web インターフェースの[電力&温度] → [サーバー電源] → [瞬間的に押す]をクリックする。



- リモートコンソールの[電源スイッチ] → [瞬間的に押す]をクリックする。



リモートコンソールでのその他電源操作については、<8.2.1.3 本体装置の電源制御方法>に記載しております。

[step.TS02-15] Boot Menu の起動

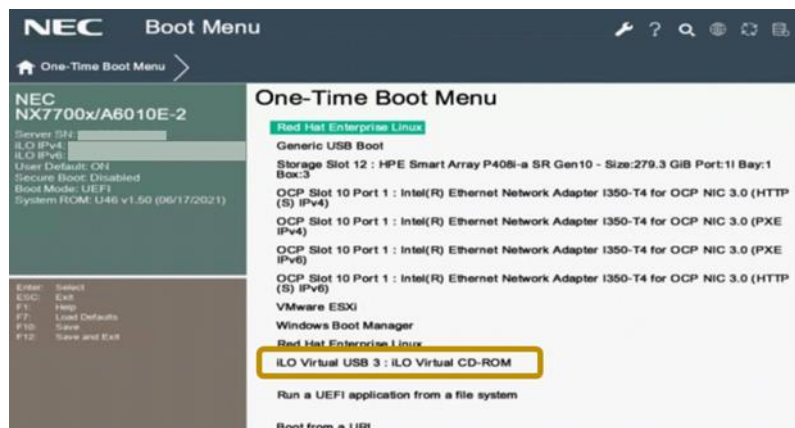
本体装置電源 ON 後、リモートコンソールが下記画面表示になったならば、<F11>キーを押して Boot Menu を起動します。



[step.TS02-16] Starter Pack の起動

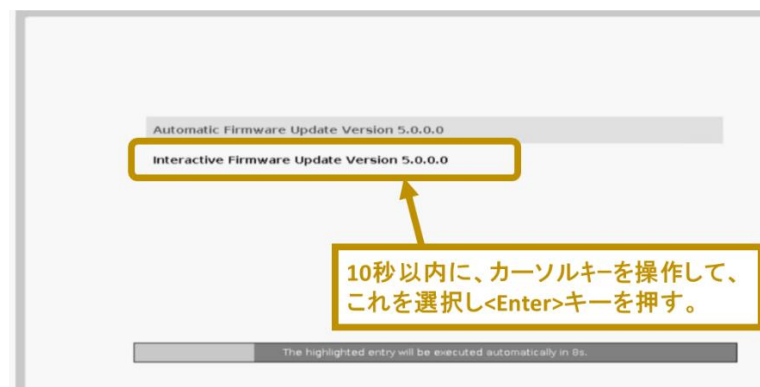
A. 起動デバイスの選択

リモートコンソールに表示されているブートメニューにおいて、「iLO Virtual USB 3:iLO Virtual CD-ROM」を選択します。



B. Interactive モードの選択

下記画面が表示されたならば、★10 秒以内★に、カーソルキーを操作して、「Interactive Firmware Update ...」を選択し、<Enter キー>を押します。



10 秒以内に選択操作をしなかった場合、「Automatic Firmware Update ...」が選択され、自動的にファームウェア更新が行われてしまいます。

C. ソフトウェア使用許諾

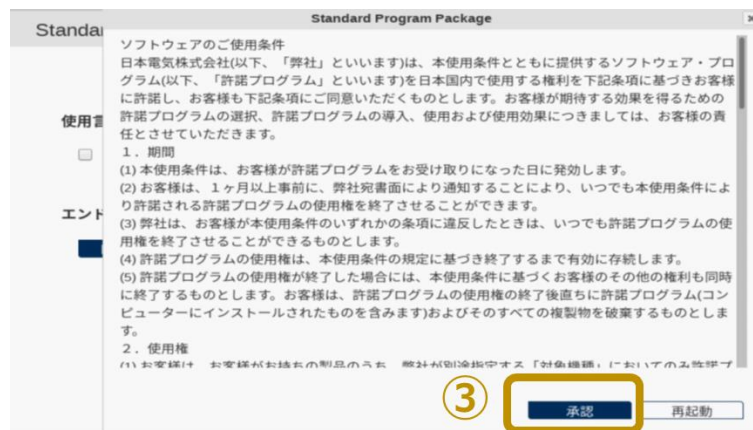
しばらくすると、下記画面が表示されますので、「Japanese」(①)を選択した後、「Read (開く)」(②)をクリックします。



ヒント

上記画面が表示されるまで、約 7 分ほどかかります。

ソフトウェア使用許諾画面が表示されますので、内容を確認して「承認」(③)をクリックします。



最後に、下記画面が表示されますので、「次へ」(④)をクリックします。



[step.TS02-17] ファームウェア更新ソフトウェア(SUM)の起動

下記画面が表示されたならば、「ファームウェアの更新」を選択します。



上記[ファームウェアの更新]を押下したら、画面遷移するまで、何も操作しないでください。

画面遷移しない状態で上記[ファームウェアの更新]を複数回押下すると、**Smart Update Manager (SUM)** ログイン画面が表示されてしまう場合があります。これは期待外の挙動です。

もし **Smart Update Manager (SUM)** ログイン画面が表示されてしまったならば、一旦本体装置を電源 **OFF** した上で再実行願います。



下記画面がポップアップ表示された場合は、「ベースラインまたはインストールセット」(①)が選択されていることを確認し、そのまま「OK」(②)をクリックしてください。



[step.TS02-18] ファームウェアインベントリの完了待ち

下記「手順 1 インベントリ」画面に切り替わり、ファームウェアのインベントリが開始されます。
下記①箇所に「インベントリ完了」と表示されるまで、しばらくお待ちください。

①箇所に「インベントリ完了」と表示されましたら、「次へ」(②)をクリックします。



インベントリ完了まで、約 10 分ほどかかります。

[step.TS02-19] ファームウェアの選択

A. ファームウェアの選択

下記「手順2 レビュー」画面が表示され、インベントリされたファームウェアが一覧表示されますので、更新するファームウェアを選択します。



上記「手順2 レビュー」画面の「利用可能なバージョン」欄に表示される情報は、ファームウェアバージョンとは限りませんので、当該情報は無視してください。

「手順2 レビュー」画面において、「コンポーネントを選択」欄を確認します。



- 前記<[step.TS02-01] ファームウェア展開失敗のパッケージ名を控える>で控えたファームウェア(パッケージ)に対して、「コンポーネントを選択」欄が「選択 (灰色バー)」または「強制 (灰色バー)」であるならば、当該ボタンをクリックし、「選択済み (青色バー)」または「強制 (青色バー)」に変更してください。



- それ以外の全てのファームウェア(パッケージ)に対して、「コンポーネントを選択」欄が「選択済み (青色バー)」または「強制 (青色バー)」であるならば、当該ボタンをクリックし、「選択 (灰色バー)」または「強制 (灰色バー)」に変更してください。



B. ファームウェアの展開

ファームウェア(パッケージ)の選択が完了しましたら、「手順 2 レビュー」画面の最下部の「展開」をクリックします。



[step.TS02-20] ファームウェア展開の完了待ち及び結果確認

A. ファームウェア展開の完了待ち

ファームウェアの展開が開始されると、下記「手順 3 展開」画面が表示されますので、全てのファームウェアの展開が完了するまで、しばらくお待ちください。



1つのパッケージのファームウェア展開が完了するまで、最大約 5 分ほどかかります。

B. ファームウェア展開の結果確認

全てのファームウェアの展開が完了すると、下記「手順 3 展開」画面の①箇所に、「展開が完了しました」と表示されます。

展開が完了しましたら、更新対象ファームウェア(パッケージ)の左端に表示されているステータスアイコン(②箇所)が全て緑色であることを確認してください。



C. 本体装置の再起動

下記「手順 3 展開」画面最下部の「再起動」(①)をクリックします。
そうすると、「再起動」のポップアップ画面が表示されますので、「はい、再起動します」をクリックします。

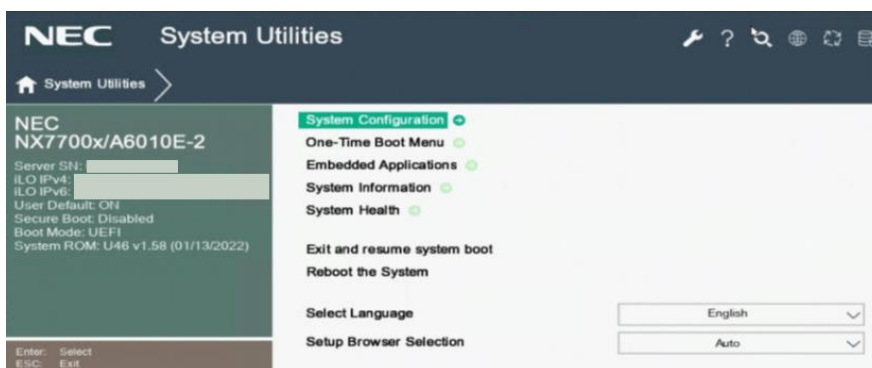


[step.TS02-21] System Utilities の起動

再起動後、リモートコンソールが下記画面表示になったならば、<F9>キーを押して System Utilities を起動します。



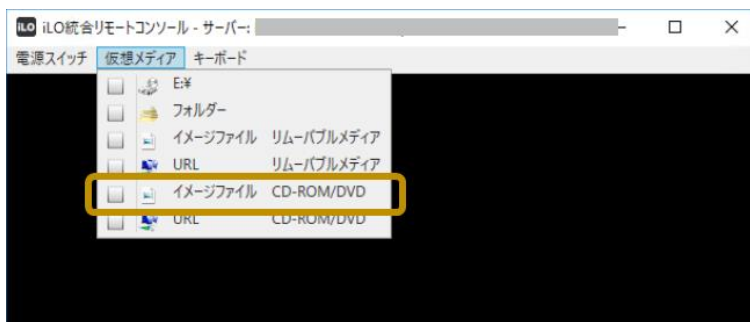
System Utilities が起動すると、リモートコンソールが下記画面表示に切り替わります。



[step.TS02-22] Starter Pack ファイルのマウント解除

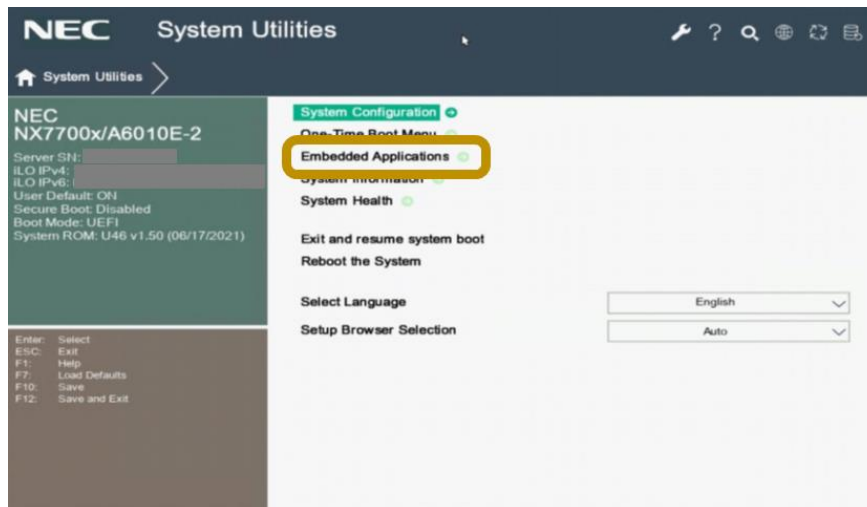
リモートコンソールにおいて、Starter Pack ファイルのマウントを解除します。
具体的には、リモートコンソールの[仮想メディア]をクリックし、[イメージファイル CD-ROM/DVD]にチェック(レ点)が付いていないか否かを確認します。

もしチェック(レ点)が付いていれば、チェック(レ点)を外します。



[step.TS02-23] UEFI Shell の起動

リモートコンソールに表示されている System Utilities 画面において、「Embedded Applications」→「Embedded UEFI Shell」を選択します。



[step.TS02-24] 本体装置の電源 OFF

リモートコンソールにて UEFI Shell が起動したら、下記コマンドを入力して、本体装置を電源 OFF します。

```
Shell> reset -s
```



以上で、本現象に対する対処は完了です。

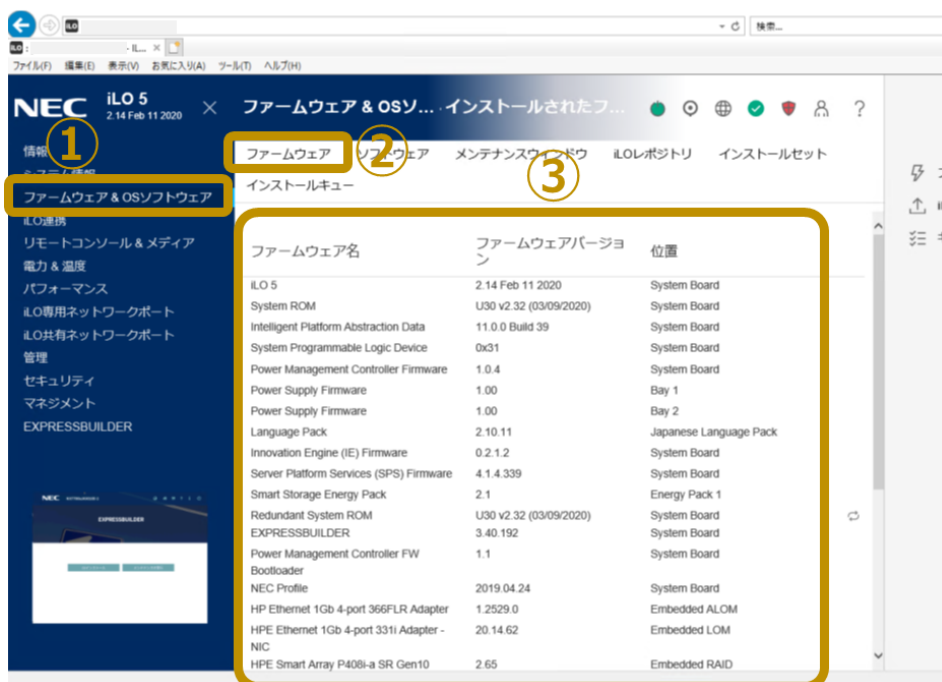
前記<6 ファームウェア更新手順>に戻り、<[step.3-05] 本体装置の AC OFF → ON>からファームウェア更新を再開してください。

8. 付録

8.1. ファームウェアバージョン確認方法

8.1.1. iLO Web コンソールでの確認方法

iLO Web インターフェースのメニューフレームにて「ファームウェア & OS ソフトウェア」(①)をクリックし、「ファームウェア」タブ(②)をクリックします。そして、下図③箇所にて、各種ファームウェアバージョンを確認できます。



本書記載ファームウェア更新手順にて更新されるファームウェア名は下表の通りです。

ファームウェア名 (*a)	参考情報 (対応デバイス)		備考
System ROM	Mother Board (System ROM)		
Redundant System ROM			
Innovation Engine (IE) Firmware	Mother Board (IE)		
Server Platform Services (SPS) Firmware	Mother Board (SPS)		
iLO 5	Mother Board (iLO 5)		
Language Pack	Mother Board (language pack)		
HPE Smart Array P408i-a SR Gen10	RAID	[NE3303-190]	(*01)
HPE Smart Array P816i-a SR Gen10	RAID	[NE3303-191]	(*01)
HPE Smart Array P408i-p SR Gen10	RAID	[NE3303-201]	(*01)
HPE Smart Array E208e-p SR Gen10	SAS	[NE3303-197]	(*01)
HPE SR416i-a Gen10+	RAID	[NE3303-237]	(*01)
HPE SR932i-p Gen10+	RAID	[NE3303-238]	(*01)
HPE NS204i-p Gen10+ Boot Controller	OS ブート専用ボード [NE3303-239]		(*01)
Intel Eth Adptr I350T4 OCPv3	NIC (1G, T)	[NE3304-206]	(*01)
Intel(R) Ethernet Server Adapter I350-T4	NIC (1G, T)	[NE3304-209]	(*01)
10Gb 2-port Base-T BCM57416 OCP3	NIC (10G, T)	[NE3304-217]	(*01)
Broadcom P210tep NetXtreme-E Dual-port 10GBASE-T Ethernet	NIC (10G, T)	[NE3304-219]	(*01)

Intel(R) Eth Ntwk Adptr OCP3.0 E810-XXVDA2	NIC (10/25G, SFP) [NE3304-208]	(*01)
Intel(R) Eth E810-XXVDA2	NIC (10/25G, SFP) [NE3304-212]	(*01)
HPE SN1200E 16Gb 1p FC HBA	FC [NE3390-163]	(*01)
HPE SN1200E 16Gb 2p FC HBA	FC [NE3390-164]	(*01)
HPE SN1600E1P 32Gb 1p FC HBA - FC	FC [NE3390-171]	(*01)
HPE SN1600E2P 32Gb 2p FC HBA - FC	FC [NE3390-172]	(*01)
HPE SN1100Q 16Gb 1P FC HBA	FC [NE3390-165]	(*01)
(*a) 上図③箇所の「ファームウェア名」欄に表示される文字列の一部です。		
(*01) 本体装置構成に依っては表示されない場合があります。		

8.2. リモートコンソール及び仮想メディア

8.2.1. .NET リモートコンソール (.NET IRC)の使い方

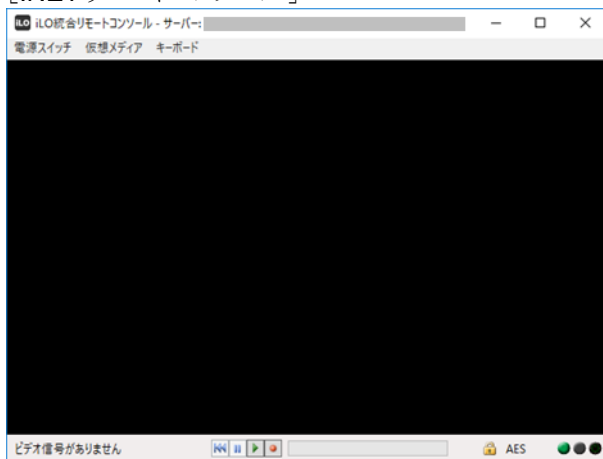
8.2.1.1. コンソールの起動

iLO Web インターフェースのメニューフレームにて「リモートコンソール & メディア」(①)をクリックし、「起動」タブ(②)をクリックします。そして、「.NET コンソール」ボタン(③)をクリックします。



.NET リモートコンソールが起動できると、下図コンソールがポップアップ表示されます。

[.NET リモートコンソール]

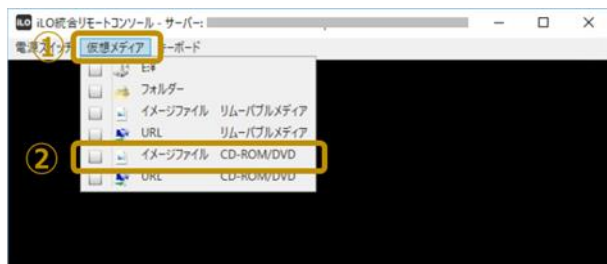


8.2.1.2. 仮想メディアのマウント方法

端末パソコン内収録 iso ファイルが本体装置から見えるようにする方法を記載します。

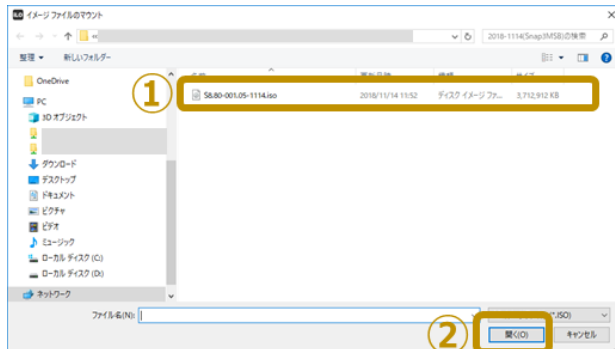
A. 仮想メディアの選択

リモートコンソールの「仮想メディア」→「イメージファイル CD-ROM/DVD」を選択します。



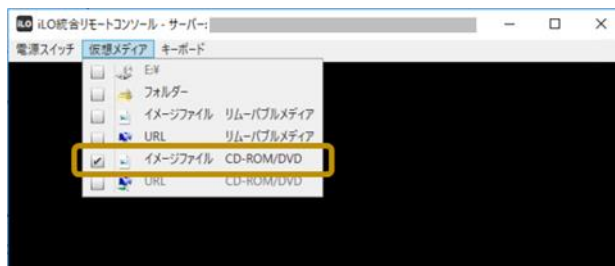
B. iso ファイルのマウント

ポップアップ表示された「イメージファイルのマウント」ダイアログにて、端末パソコン内に収納している iso ファイルを選択し(①)、「開く(O)」ボタン(②)をクリックします。



C. iso ファイルのマウントの確認

リモートコンソールの[仮想メディア]をクリックし、[イメージファイル CD-ROM/DVD]にチェック(レ点)が付いていることを確認します。

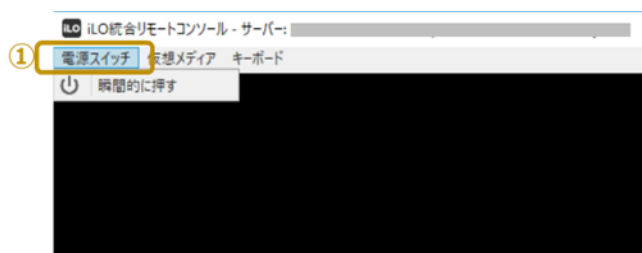


	マウント解除する場合は、リモートコンソールの[仮想メディア] → [イメージファイル CD-ROM/DVD] にチェック(レ点)が付いている状態で、[イメージファイル CD-ROM/DVD]をクリックします。
---	---

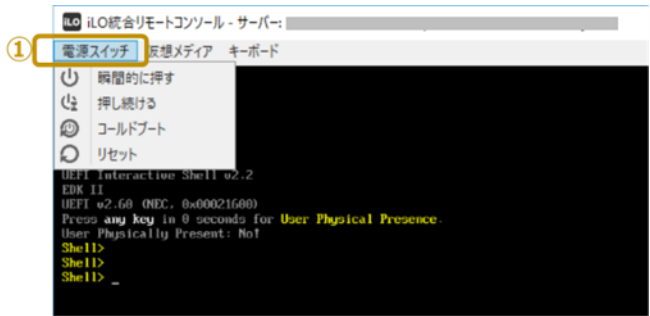
8.2.1.3. 本体装置の電源制御方法

リモートコンソールの[電源スイッチ]をクリックすると、電源操作メニューが表示されます。表示される電源操作メニューは、本体装置の電源状態に依り異なります。

[本体装置電源 OFF 状態のとき]



[本体装置電源 ON 状態のとき]



各電源操作メニューのアクションは下表の通りです。

本体装置 電源状態	電源操作メニュー	アクション
OFF	瞬間的に押す	本体装置の電源を ON します。
ON	瞬間的に押す	本体装置の電源を OFF しようとしています。 但し、実際に電源 OFF されるか否かは OS 設定等に依存します。
	押し続ける	本体装置の電源を強制的に OFF します。 その他手段で本体装置の電源を OFF できないケースのときのみ使用してください。
	コールドブート	本体装置を再起動します。
	リセット	本体装置を再起動します。

8.2.2. HTML5 統合リモートコンソールの使い方

8.2.2.1. コンソールの起動

iLO Web インターフェースのメニューフレームにて「リモートコンソール & メディア」(①)をクリックし、「起動」タブ(②)をクリックします。そして、「HTML5 コンソール」ボタン(③)をクリックします。



HTML5 リモートコンソールが起動できると、下図コンソールがポップアップ表示されます。

[HTML5 リモートコンソール]



8.2.2.2. 仮想メディアのマウント方法

端末パソコン内収録 iso ファイルが本体装置から見えるようにする方法を記載します。

A. 仮想メディアの選択

リモートコンソールの  をクリックし、[CD/DVD] → [ローカル *.iso ファイル]を選択します。



B. iso ファイルのマウント

ポップアップ表示された「アップロードするファイルの選択」ダイアログにて、端末パソコン内に収納している iso ファイルを選択し①、「開く(O)」ボタン②をクリックします。



C. iso ファイルのマウントの確認

リモートコンソールの  をクリックし、[CD/DVD] にチェック(レ点)が付いていることを確認します。





ヒント

マウント解除する場合は、リモートコンソールの  をクリックし、[CD/DVD] → [メディアの強制取り出し] を選択します。



8.2.2.3. 本体装置の電源制御方法

リモートコンソールの  をクリックし[電源]を選択すると電源操作メニューが表示されます。表示される電源操作メニューは、本体装置の電源状態に依り異なります。

[本体装置電源 OFF 状態のとき]



[本体装置電源 ON 状態のとき]



各電源操作メニューのアクションは下表の通りです。

本体装置電源状態	電源操作メニュー	アクション
OFF	瞬間的に押す	本体装置の電源を ON します。
ON	瞬間的に押す	本体装置の電源を OFF しようとしています。 但し、実際に電源 OFF されるか否かは OS 設定等に依存します。
	押し続ける	本体装置の電源を強制的に OFF します。 その他手段で本体装置の電源を OFF できないケースのときのみ使用してください。
	コールドブート	本体装置を再起動します。
	リセット	本体装置を再起動します。

8.2.3. Java 統合リモートコンソール (Java IRC) の使い方

8.2.3.1. コンソールの起動

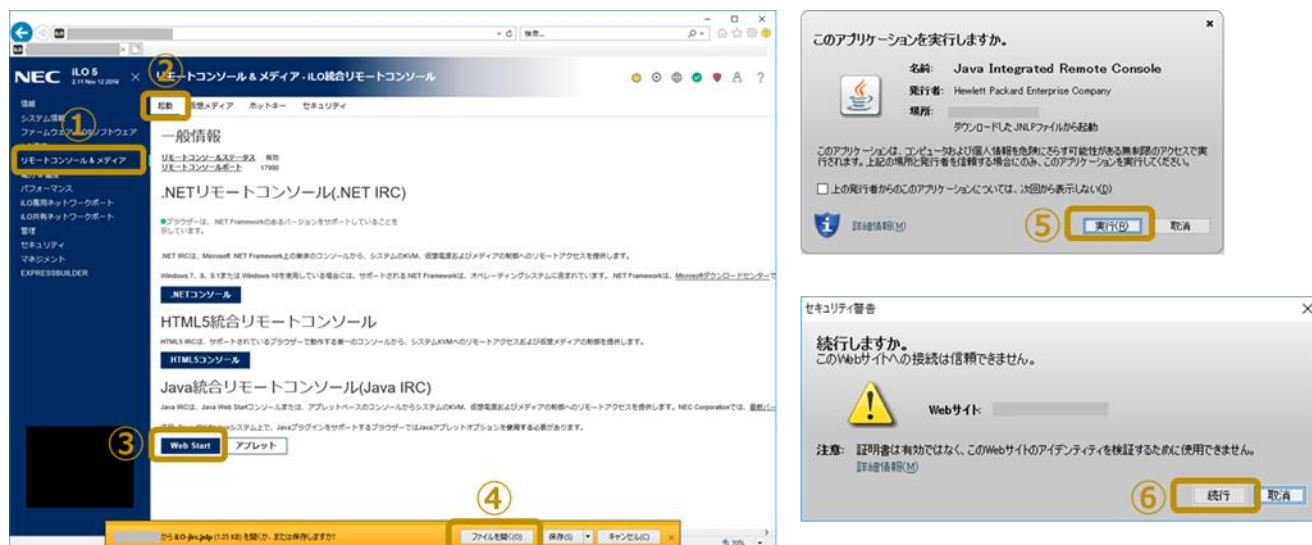
① iLO Web インターフェースのメニューフレームにて「リモートコンソール & メディア」(①)をクリックし、「起動」タブ(②)をクリックします。そして、「Web Start」ボタン(③)をクリックします。

④ 「…を開くか、または保存しますか？」とポップアップ表示されたならば、「ファイルを開く(O)」をクリックします。

⑤ 「このアプリケーションを実行しますか。」とポップアップ表示されたならば、「実行(R)」をクリックします。

尚、この画面がポップアップ表示されるまで約1分ほどかかります。

⑥ セキュリティ警告画面がポップアップされたならば、「続行」をクリックします。



Java 統合リモートコンソールが起動できると、下図コンソールがポップアップ表示されます。

[Java 統合リモートコンソール]

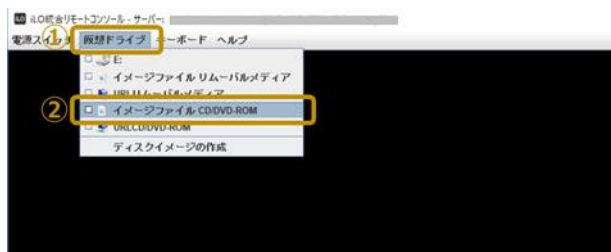


8.2.3.2. 仮想メディアのマウント方法

端末パソコン内収録 iso ファイルが本体装置から見えるようにする方法を記載します。

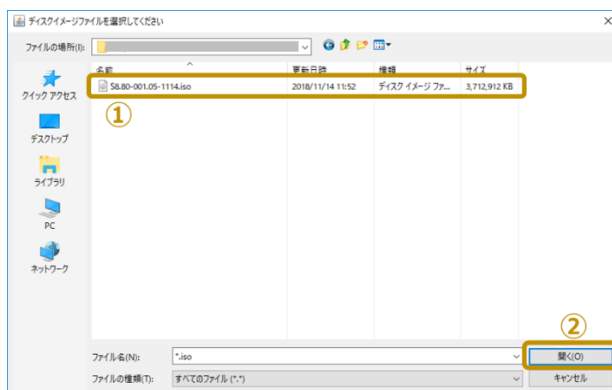
A. 仮想メディアの選択

リモートコンソールの[仮想ドライブ] → [イメージファイル CD/DVD-ROM]を選択します。



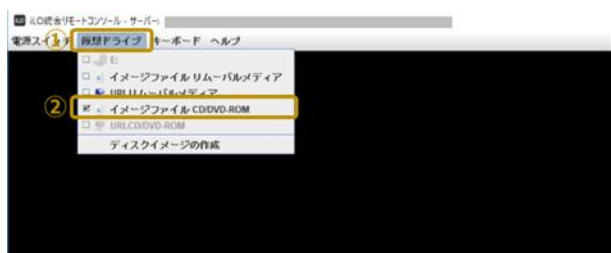
B. iso ファイルのマウント

ポップアップ表示された「ディスクイメージファイルを選択してください」ダイアログにて、端末パソコン内に収納している iso ファイルを選択し(①)、「開く(O)」ボタン(②)をクリックします。



C. iso ファイルのマウントの確認

リモートコンソールの[仮想ドライブ]をクリックし、[イメージファイル CD/DVD-ROM]にチェック(レ点)が付いていることを確認します。





マウント解除する場合は、リモートコンソールの[仮想ドライブ] → [イメージファイル CD/DVD-ROM] にチェック(レ点)が付いている状態で、[イメージファイル CD/DVD-ROM]をクリックします。

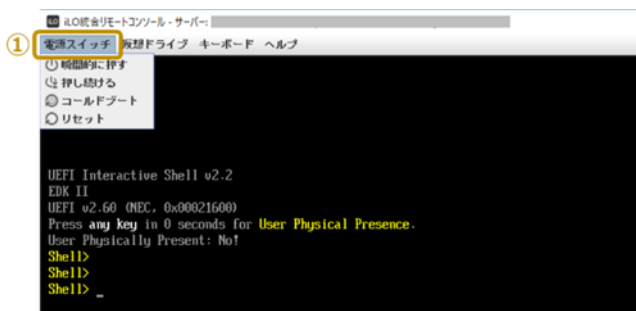
8.2.3.3. 本体装置の電源制御方法

リモートコンソールの[電源スイッチ]をクリックすると、電源操作メニューが表示されます。
表示される電源操作メニューは、本体装置の電源状態に依り異なります。

[本体装置電源 OFF 状態のとき]



[本体装置電源 ON 状態のとき]



各電源操作メニューのアクションは下表の通りです。

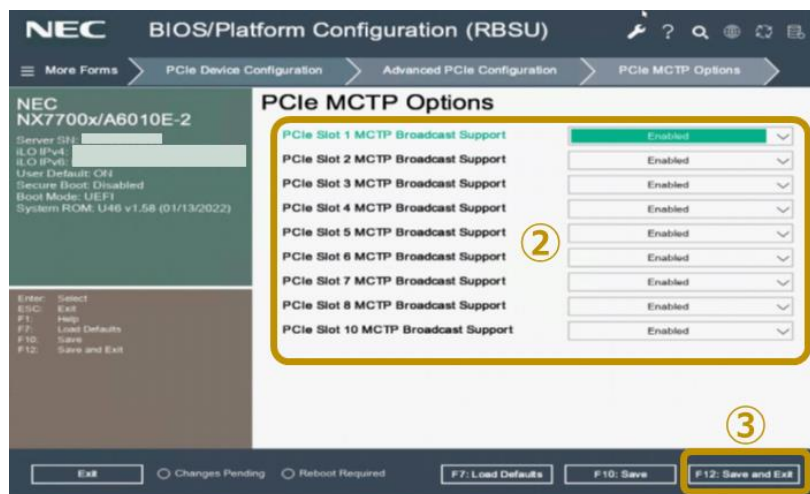
本体装置 電源状態	電源操作メニュー	アクション
OFF	瞬間的に押す	本体装置の電源を ON します。
ON	瞬間的に押す	本体装置の電源を OFF しようとします。 但し、実際に電源 OFF されるか否かは OS 設定等に依存します。
	押し続ける	本体装置の電源を強制的に OFF します。 その他手段で本体装置の電源を OFF できないケースのときのみ使用してください。
	コールドブート	本体装置を再起動します。
	リセット	本体装置を再起動します。

8.3. MCTP 設定変更方法

System Utilities 及び iLO Web インターフェースでの MCTP 設定の変更方法を記載します。

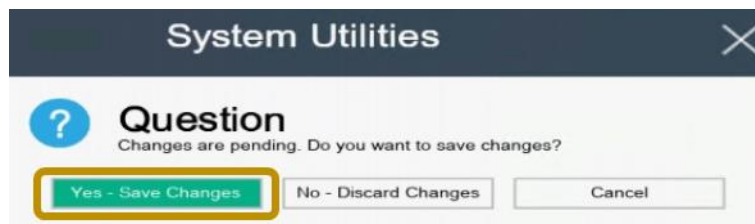
System Utilities の MCTP 設定変更方法

- ① リモートコンソールを起動し、本体装置電源 ON 後、POST 時に<F9>キーを押して System Utilities を起動します。
そして、{「System Configuration」→「BIOS/Platform Configuration (RBSU)」→「PCI Device Configuration」→「Advanced PCIe Configuration」→「PCIe MCTP Options」} を選択します。
- ② 下図 PCIe MCTP Options 画面において、MCTP Broadcast Support を適切に設定します。

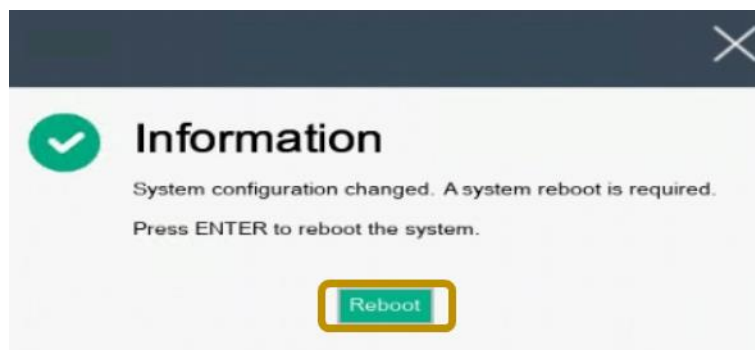


- ③ 設定変更を保存及び反映させるために、上図画面右下の「F12: Save and Exit」をクリックします。

下図ダイアログが pop-up 表示されたならば、「Yes - Save Changes」をクリックします。



下図ダイアログが pop-up 表示されたならば、「Reboot」をクリックします。
本体装置が再起動します。



- ④ 本体装置再起動後、POST 時に<F9>キーを押して **System Utilities** を起動します。
そして、「Embedded Applications」→「Embedded UEFI Shell」を選択し、UEFI Shell を起動します。
UEFI Shell 起動したら、「reset -s」と入力して、本体装置を電源 OFF します。



以上で、System Utilities の MCTP 設定変更操作は終了です。

iLO Web インターフェースの MCTP 設定変更方法

- ① 本体装置を電源 OFF します。
- ② iLO Web インターフェースにおいて、メニューフレームにて「システム情報」(A)をクリックし、「デバイスインベントリ」タブ(B)をクリックします。そして、下図 C 箇所の「検出」をクリックします。



- ③ 下図検出設定ページにおいて、MCTP を適切に設定します。



- － MCTPを「無効」に設定する場合、
上図 D-1 箇所の「MCTP」欄を  に設定した後、「適用」(D-2)をクリックします。
そうすると、下図「MCTP の設定を確認」フレームが表示されますので、「はい」(D-3)をクリックします。



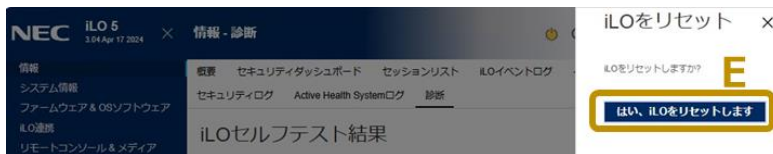
- － MCTPを「有効」に設定する場合、
上図「MCTP 工場出荷時リセット」(E-1)をクリックします。
そうすると、下図「MCTP 工場出荷時リセット」フレームが表示されますので、「はい」(E-2)をクリックします。



- ④ iLO をリセットします。
具体的には、iLO Web インターフェースにおいて、メニューフレームにて「情報」(A)をクリックし、「診断」タブ (B)をクリックします。そして、下図 C 箇所の「リセット」をクリックします。



そうすると、下図「iLO をリセット」フレームが表示されますので、「はい、iLO をリセットします」(E)をクリックします。iLO がリセットされます。



以上で、iLO Web インターフェースの MCTP 設定変更操作は終了です。

NEC NX7700x シリーズ

NX7700x/A6010E-2 シリーズ
ファームウェア更新ガイド
(オフライン版、Starter Pack 利用)
【特定物件更新用】

2025 年 7 月 第 1 版

日 本 電 気 株 式 会 社

東京都港区芝五丁目 7 番 1 号
TEL (03) 3454-1111 (大代表)

落丁、乱丁はお取り替えいたします。

© NEC Corporation 2025

日本電気株式会社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。